

# <食育グループ>

## 食育グループの目的

- ・「食に関する指導の全体計画」の周知と指導の充実
- ・医療的ケアを必要とする児童生徒の給食指導の充実

## 食育グループの研究内容

- 1 食に関する指導の全体計画の確認  
(学習指導要領での位置づけ等)
- 2 摂食機能評価表の目標と内容について  
(小・中・高での実態の確認)
- 3 各学部の各教科等における食に関する指導の実践研究
  - (1) 小学部～社会の授業での実践
  - (2) 中学部～保健体育の授業での実践
  - (3) 高等部～医療的ケアが必要な生徒の摂食（給食）指導の実践

# 食育グループの研究内容

## 1 食に関する指導の全体計画

【児童生徒の実態】		食に関する指導の全体計画		令和2年度 健康推進部
<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由を主障害とし、食 べるときの支援を必要とする 児童生徒が多い。</li> <li>・食物アレルギー除去食 6%</li> <li>・ミキサー食 1.5%</li> </ul>		学校の教育目標 「人とのつながりを大切にし、 「自分の考えを持ち、自分の考えを伝え、自分の考えをもとに行動できる人を育てる」		
↓				
食に関する指導の目標				
(1) 決める力。	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとりかたについて、自ら考え、判断していく。			
(2) 見る聞く感じる力。	食品の品質及び安全性等について、正しい知識や必要な情報を得ることができる。			
(3) 伝える力。	食物の生産等や食にかかわる人々へ感謝する心や、食文化や食にかかわる歴史等の知識をもち、それを表現することができる。			
(4) つながる力。	友達や教師との会食を通し、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身につける。			
(5) やる気・元気。	心身の成長や健康の保持増進の上で、望ましい栄養・食事のとりかたを理解したり、食べる機能及び食事動作を維持向上したりすることができる。			
↓				
各学部の食に関する指導の目標				
小学部 「広げる」	中学部 「高める」	高等部 「発揮する」		
(1) 食事の喜びや楽しさを経験し、食事の重要性について自ら考え判断していく。 (2) 学齢期における生活の中で、食べ物や食事への興味関心を広げ、自ら調べたり学んだりしながら情報を得る。 (3) 食物を大切にし、食に関わる様々な人に感謝する気持ちを養い、それを表現する。 (4) 友達や教師との会食を通じ、相手とやりとりする力や食事のマナーを身につける。 (5) 食にかかわる機能や食事動作を向上させ、基本的な食習慣の確立を目指す。	(1) 安全で健康的な食生活の実現に向け、栄養素や食事バランスについて自ら考え判断していく。 (2) 思春期における心身の変化を自覚し、食について必要な知識や情報を得る。 (3) 食にかかわる意思を自分なりの手段で主体的に表現する。 (4) 食を通じてコミュニケーションを図り、望ましい態度やマナーを身につける。 (5) 食にかかわる機能を維持・向上させ、充実した食生活の確立を目指す。	(1) 獲得した知識や情報から、自分に必要なものを取捨選択する。 (2) 青年期に向けた生活に必要な食についての情報を得る。 (3) 社会生活に向けた食経験を拡大させ、食にかかわる意思を適切に表現する。 (4) 自分と他者の違いを認め、食を通じた好ましい態度を身につける。 (5) 食にかかわる機能を維持・向上させ、物的・人的な支援を活用して卒業後の食生活に繋げる。		
↓				
寄宿舎				
(1) 心身の成長や健康保持増進のために、望ましい栄養や食事の取り方を知り、自ら進んで食べることができる。 (2) 誰とでも食事をとることができ、食に関わる様々な人に感謝する気持ちを持ち、表現できる。 (3) 食事のマナーや決まりを理解し、楽しく食事ができる。				

食に関する指導内容。

教科 科	生活。	金銭の扱い（商店、買い物）、手伝い・役割（調理、仕事）、基本的な生活習慣（食事・清潔）。
	社会。	産業と生活（販売と消費）（仕事と生活）、我が国の地理や歴史（身近な地域）。
	理科。	生命・自然（身近な生物）（人の体のつくり）、物質・エネルギー（水や空気と温度）。
	職業・家庭。	消費生活・環境（身近な消費生活）、衣食住の生活（調理の基礎）（栄養を考えた食事）（食事の役割）。
	保健体育。	健康な生活（むし歯の予防）、健康・安全（栄養が偏らないバランスのとれた食事、食べ過ぎない）、一日の生活リズム（食事）。
自立活動。	食に関する自己管理、水分摂取の必要性や判断、食に関する要求と表出、食に関する支援と依頼、人と共に食べる喜び、 介助と支援の受け入れ、生活リズム他、アレルギー他の安全への理解と配慮（摂食）姿勢、食形態、摂食機能、食具、介助法、自食、 味わうこと、ペーシング、食への意欲と口腔内感覚の拡大。 ----- 栄養に関する医療的ケアを必要とする児童生徒の経口、食事場面の理解と共有。	
道徳。	伝統の継承、郷土愛 礼儀、マナー、感謝 望ましい生活習慣 安心安全な食生活。	
特別活動。	献立メニューの確認 行事食（季節の食事、郷土料理、世界の料理、給食週間） 校外学習で会食 卒業生リクエスト給食。	
個別的な 指導・相談。 （栄養相談） （摂食相談）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 肥満、やせ傾向、食物アレルギー、疾患、偏食。</li> <li>○ 医療的ケアによる栄養摂取（経鼻経管、胃瘻等）。</li> <li>○ 対応食の実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー等の疾患による除去食。</li> <li>・形態食（粥、ミキサー食、軟菜食等）。</li> <li>・再調理。</li> </ul> </li> </ul>	
食に関する環境の整備。	安心・安全な 食環境の整備。	心身ともに安定し、集中して食べる食環境を整える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度、湿度、照明等。</li> <li>・安心できる環境。</li> <li>・気持ちの安定を図る集団。</li> </ul>
	家庭との連携。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭から一日を通じた児童生徒の食事内容・場面についての情報を把握し、うち一食である給食指導を実践する。</li> <li>・必要に応じて家庭での取り組み、協力を学校と双方向で行えるよう連携する。</li> </ul>

## 給食指導における「自立活動」の観点

- 「食に関する理解と自己管理」: 食に関する知識や食事内容、パフンスのとれた食事を理解し、日常生活における適切な自己管理ができる。一区分(健)。
- 「水分摂取の必要性の理解と判断」: 必要に応じて水分摂取する等の判断ができる。一区分(健・心)。
- 「食に関する要求と表出」: 食べたい物を選んで、人へ伝えることができる(視線、動作、指さし、声、発語等)。支援して欲しい内容、して欲しくない内容について教師や他児へ伝える事ができる。一区分(健・心・人・環・身・コ)。
- 「人と共に食べる喜び」: 教師、児童生徒とのかかわりを楽しみ、共に食べることに喜びを感じ、会話等を楽しむ。一区分(人・コ)。
- 「介助と支援の受け入れ」: 介助や支援を受けることを受け入れることができる。介助で食べている児童生徒は、介助法を察し経年的に、さまざまな人からの介助を受け入れることができるよう育てる。一区分(健・心・人・環・身・コ)。
- 「生活リズム軸」: 生活リズムや規則正しい食事時間の習慣化、覚醒、呼吸、排泄のリズムなどを察し、健やかな身体をつくる。一区分(健)。
- 「アレルギー・他の安全への配慮」: アレルギーに留意し、安心・安全な給食提供に努める。また、可能な範囲で児童生徒自身がそれを理解し、選択、意思伝達できるよう育てる。一区分(健・環・コ)。
- 「食事姿勢の設定」: 食事場面での姿勢設定、姿勢保持に向けた姿勢準備などを行い、安全に食べる姿勢設定をする。必要に応じて、座位保持椅子や器具等を使用する。一区分(健・身)。
- 「食形態の設定」: 児童生徒の食べる機能を把握し、実態に応じた食形態を整える(トロ身使用含む)。一区分(健・環・身)。
- 「摂食機能の維持向上」 一区分(健・環・身)。
- 「適切な食具の使用」: 適切なスプーンやコップの選定や使用 一区分(身)。
- 「機能を引き出す介助法」: 児童生徒の実態にあわせ、機能の維持向上に向けた介助法を実践する。一区分(健・心・人・環・身・コ)。
- 「自食機能の維持向上」: 自食の可能な児童生徒については、実態に合った自助具を準備し、食事動作の学習や、自食機能の維持向上を促す。一区分(身)。
- 「献立の受け入れ・味わうこと」: 様々な献立(味、匂い、食感触等の感覚)を受け入れ、味わうことができる。一区分(心・環)。
- 「食材や献立に応じた摂食機能の発揮」: 食材の大きさ、固さ、粘性等に応じた摂食機能の促進と、献立に応じた食べ方ができるよう促す。一区分(健・環・身)。
- 「早食い・丸飲みの防止とミーシング」: 早食い、丸飲み等へは、ミーシング軸に配慮し、安全に味わって食べるよう促す。一区分(健・人・環・身)。
- 「食への意欲と口腔内感覚の拡大」: 食への意欲を育てる、口腔内感覚の幅を広げる。一区分(健・環)。
- 「栄養に関する医病的ケアを必要とする児童生徒の経口と食事場面の理解と共有」。
- 医病的ケアによる栄養摂取(経鼻経管・胃瘻等)の児童生徒は、給食場面で他児童生徒と場面を共にすることによって、食事場面の理解、空腹や満腹の感覚と充足感、他児童生徒と、場面共有することによるやりとりや、楽しみを学ぶ。一区分(健・人・環・コ)。

# 学習指導要領での位置づけ

## 第1章 総則

### 第2節 小学校及び中学部における教育の基本と教育課程の役割

- 2 (3) 学校における体育健康に関する指導…特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科、家庭科、及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳〈外国語活動〉及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること…

### 第6節 学校運営上の留意事項

などに食育に関する記載がある

# 食育グループの研究内容

## 2 摂食機能評価表の目標と内容について

							記載者
姿勢・運動		定額(有 無)	座位	つかまり立ち	独歩		
		抱っこ 工房椅子	バギー	生徒椅子	カットアウトテーブル		
食形態	主食	米飯 麺・パン時の配慮点	お粥	ミキサー粒有	ミキサー粒無		
	副食	そのまま 刻み( 一口大 1cm 5mm 1mm		ミキサー粒有	ミキサー粒無 )		
	水分	とろみ無 とろみ有		その他(胃瘻 経鼻胃チューブ )			
摂取方法	方法	全量経口 経口上限		その他 (胃瘻 経鼻胃 チューブ) 栄養剤( )			
	自食	自食 半介助 全介助					
	使用食具	スプーン(生徒用 シリコン プラスチック 他 ) 箸 自助具 ( )					
口腔機能	とりこみ	上口唇使用( 可 不可 )					
	処理	舌の動き ( 前後 上下 左右 )					
		咀嚼 ( 有 ときどき有 無 )					
	嚥下	( 舌を出して嚥下 閉口唇嚥下 )					
	水分摂取	コップ スプーン その他( )					

食事時の様子(表面資料の摂食・嚥下時の課題の項目参考に記載)				食事時間( )分							
介助時、安全面での留意点、配慮点等											
保護者の食事に対する希望、心配していること											
・歯磨きの受け入れ(嫌がる、嫌がらない)				・顔の過敏(有 無)							
・涎(無 多い、少ない、時々)				・排便(良好 不良)							
・誤嚥診断(有 無) いつ( )才				どこで診断( )病院							
・好きな食べ物				嫌いな食べ物							
.....											
・食物アレルギー											
・食育に関して:安全と衛生、食への興味・関心、食事マナー、基本的食習慣、食文化等											
.....											
身長		cm	体重	kg	(月日)	/	身長	cm	体重	k	(月日)
<b>摂食指導・食に関する指導の取り組み内容</b>											
課題と目標											
.....											
手立て		<b>(指導内容)</b>									
		<b>(指導方法)</b>									
		<b>指導の時間)</b>									
.....											
再評価											

## 食育グループの研究内容

### 3 各学部の各教科等における食に関する

#### 指導の実践研究

#### (1) 小学部の実践

準ずる教育課程の児童（小学部5年生）

社会科 単元名「これからの食料生産と私たち」

単元指導計画（案）

教科名	社会	学部	小学部	学年	5年
グループ/教育課程	準ずる	指導時期	10・11月	指導コマ数	11コマ
単元・題材名	「これらかの食料生産と私たち」		学習指導要領との関連		社会 家庭科 総合的な学習の時間
教育課程	自活中心	I	II	III	準ずる
*人数					1名
*児童生徒名					KA
*指導者数					1名
育てたい力「生きる力の五要素」 ※重視する力を網かけ。					
きめる力	見る聞く感じる力	伝える力	つながる力	やる気元気	

●単元のねらい及び評価規準

単元（題材）のねらい	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食料生産の時代的变化や現状、課題を理解することができる。</li> <li>食料生産の外国との違いや、輸入・輸出の関係について理解することができる。</li> <li>農家と販売者、消費者のつながりを理解することができる。</li> </ul> <p><b>【食育の視点】小学部(3)食物を大切にし、食に関わる様々な人に感謝する気持ちを養い、それを表現する。</b></p>
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや写真、地図帳、新聞記事などの資料をもとに、必要な情報を整理して読み取ることができる。</li> <li>日本の食料生産の課題や今後の取り組み、自分にできることや取り組みたいことを考えて他者へ伝えることができる。</li> </ul> <p><b>【食育の視点】小学部(2)学齢期における生活の中で、食べ物や食事への興味関心を広げ、自ら調べたり学んだりしながら情報を得る。</b></p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食料生産の現状や課題に興味関心をもち、自分や身近な食生活をよりよくしようと考え、他者へ伝えることができる。</li> </ul> <p><b>【食育の視点】小学部(2)学齢期における生活の中で、食べ物や食事への興味関心を広げ、自ら調べたり学んだりしながら情報を得る。</b></p>

「食育の視点」  
食に関する指導の全体計画から、小学部の目標を「食育の視点」として盛り込む。

## 令和2年度 小学部5学年社会科 指導略案

中

日時	令和2年10月27日(火) 11:25~12:10		
場所	小学部5年1組教室	担当	
单元名	「これからの食料生産と私たち」		
題材名	「主な食料別の自給率と輸入相手国」		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常よく食べる主な食品の自給率と、主に輸入する国々を理解することができる。</li> <li>・ なぜ、そのような自給率となっているのかを考え、自分の言葉で伝えることができる。</li> </ul>		
時間	□学習内容 ◎児童の活動	●教師の活動 ※指導上の留意点	教材・教具
11:25	<p>□はじめのあいさつ</p> <p>◎はじめのあいさつをする。</p> <p>□前回までの復習</p> <p>◎日本の全体的な食料自給率は、時代の変化とともにどのような変化してきたか？</p>	<p>●前回の振り返りとして、教科書を閉じたまま発問する。</p> <p>●児童が答えた後に、教科書を開く。</p>	<p>・教科書</p> <p>・書見台</p>
11:30	<p>□主な食品別の自給率</p> <p>◎資料集の円グラフ、教科書の棒グラフを見る。米、小麦、大豆、肉類、野菜と果物、乳製品について、自給率と輸入率の割合を読み取る。</p>	<p>●児童が読みとった数値をPポイントの空欄に記入する。</p> <p>※児童がどのように感じたかも引き出す。</p> <p>※実物や画像を提示してイメージしやすいようにする。</p>	<p>【食育の視点】</p> <p>①国産と外国産の実物、 ②家庭での買い物リストを提示する。身近な食べ物や食事への興味関心につなげる。</p> <p>・種類、納豆などの外装フィルム、野菜や肉の</p>

# 食育グループの研究内容

## 3 各学部の各教科等における

### 食に関する指導の実践研究

#### (2) 中学部の実践

中学部 1～3年生 (Aグループ)

保健体育科

単元名「心身の発達と心の健康」

中学部 保健体育における食に関する指導		
教科	保健体育	
目標	ア 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	
1段階	イ 各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	
	ウ 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。	
2段階	ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	
	イ 各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	
	ウ 各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進と回復に進んで取り組む態度を養う。	
	指導内容	食育の視点(本校の目標)
1段階	健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 安全で健康的な食生活の実現に向け、栄養素や食事バランスについて自ら考え判断していく。
	ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。	(2) 思春期における心身の変化を自覚し、食について必要な知識や情報をえる。
	イ 自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	
	(具体的指導内容) ・栄養が偏らないようにバランスのとれた食事をし、食べすぎないようにして健康的な生活を送ることができるようにする。 ・身体の発育に関心をもつ。 ・身体各部の動きを知る。	
2段階	健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 安全で健康的な食生活の実現に向け、栄養素や食事バランスについて自ら考え判断していく。
	ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けること。	(2) 思春期における心身の変化を自覚し、食について必要な知識や情報をえる。
	イ 自分やグループの健康・安全についての課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	

単元指導計画（案）

教科名。	保健体育。	学部。	中学。	部。	学年。	1. 2. 3.	年。
グループ/教育課程。	A.	指導時期。	10.	月。	指導コマ数。	3.	コマ。
単元・題材名。	保健。 「心身の発達と心の健康」。		学習指導要領との関連。		<知小・体育>。 保健。		
*児童生徒名。	1年～ 2年～ 3年～						
*指導者数。	1年～ 2年～ 3年～						
育てたい力「生きる力の五要素」 ※重視する力を網かけ。							
きめる力	見る聞く感じる力	伝える力	つながる力	やる気元気。			

●単元のねらい及び評価規準。

単元（題材）のねらい。		
	II.	III.
知識・技能。	心身の発育・発達について、健康な生活を送るための事柄を知る。』 (食育の視点)。 ・思春期における心身の変化を自覚し、食について必要な知識や情報を得る。』	心身の発育・発達について、健康な生活に必要な知識や技能を身につける。』 (食育の視点)。 ・思春期における心身の変化を自覚し、食について必要な知識や情報を得る。』
思考力・判断力・表現力。	充実した発育・発達に必要な事柄を知り、感じたことを他者に伝える。』 (食育の視点)。 ・安全で健康的な食生活の実現に向け、栄養素や食事バランスについて自ら考え判断していく。』	充実した発育・発達に必要な事柄を工夫するとともに、考えたことや気づいたことなどを他者に伝える。』 (食育の視点)。 ・安全で健康的な食生活の実現に向け、栄養素や食事バランスについて自ら考え判断していく。』
主体的に学習に取り組む態度。	積極的に授業に参加することができる。』	積極的に授業に参加することができる。』

「食育の視点」  
食に関する指導の全体計画から、  
中学部の目標を「食育の視点」として盛り込む。



中学部「保健体育」指導略案

単元名	心身の発達と心の健康	題材名	体の発達
日時	2020年10月8日(木)	場所	小・中玄関ホール
学習集団	Aグループ 1年： 2年： 3年：	指導者	MT： ST：
題材目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の発育・発達について、健康な生活に必要な知識や技能を身につける。</li> <li>充実した発育・発達に必要な事柄を工夫するとともに、考えたことや気づいたことなどを他者に伝える。</li> </ul>		
時間	学習内容	生徒の活動	教師の活動・指導上の留意点
13:40	1. あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表生徒の号令に合わせて挨拶をする。</li> </ul>	<p>学習に必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PC1台</li> <li>TV1台</li> <li>机3台</li> </ul>
13:42	2. 出席、体調の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>名前を呼ばれた生徒は返事をする。</li> </ul>	
13:50	3. 学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習内容を知る。</li> <li>①体の発達</li> <li>②一日の生活を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントを使用して提示する。</li> </ul>
13:55	4. 体の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>思春期に充実した成長をするためには運動・食事・休養が必要なことを知る。</li> <li>〈運動〉</li> <li>週に3～5日約30分の運動が良い。</li> <li>〈食事〉(食育の視点)知識・技能</li> <li>バランスの良い食事について知る。</li> <li>主食～ごはん、パン、めんなど</li> <li>主菜～肉、魚、卵など</li> <li>副食～野菜など</li> <li>汁物～みそしる、スープ</li> <li>〈休養〉</li> <li>休養として睡眠、趣味、ストレッチなどがあることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントを使用しながら進める。</li> </ul>

## 食育グループの研究内容

### 3 各学部の各教科等における食に関する 指導の実践研究

#### (3) 高等部～医療的ケアが必要な生徒の摂食（給食）指導 の実践

高等部 1 年生

自立活動 給食の経口摂取と給食のミキサー食注入

# 食育グループの研究内容

## 3 各学部の各教科等における食に関する指導の実践研究

### (3) 高等部～医療的ケアが必要な生徒の摂食（給食）指導の実践

高等部1年生

自立活動

給食の経口摂取と

給食のミキサー食注入

食に関する指導の全体計画 給食指導における「自立活動」の観点より（令和2年度 提案）

本生徒のねらいになるものを抜粋

+

・「食に関する要求と表出」：食べたいものを選んで、人へ訴えることができる。

（健・心・人・環・身・コ）

・「人と共に食べる喜び」：教師、児童生徒とのかかわりを楽しみ、共に食べることに喜びを感じ会話を  
楽しむ。

（人・コ）

・「介助と支援の受け入れ」：介助や支援を受けることを受け入れることができる。介助で食べている児童生徒は介助法を整え、経年的に、さまざまな人からの介助を受け入れることができるよう育てる。

（健・心・人・環・身・コ）

・「生活リズム他」：生活リズムや規則正しい食事時間の習慣化、覚醒、呼吸、排せつのリズムなどを整え、健やかな健康をつくる。

（健）

・「摂食機能の維持向上」

（健・環・身）

+

・「献立の受け入れ・味わうこと」：様々な献立（味、匂い、食感触等の感覚）を受け入れ、味わうことができる。

（心・環）

・「食への意欲と口腔内感覚の拡大」：食への意欲を育てる、口腔内感覚の幅を広げる。（健・環）

+

・「栄養に関する医療的ケアを必要とする児童生徒の経口と食事場面の理解と共有」

：医療的ケアによる栄養摂取（経鼻経管・胃瘻等）の児童生徒は、給食場面で他児童生徒と場面を教諭することによるやりとりや、楽しみを学ぶ。

（健・人・環・コ）

給食・経口での摂食希望

H29. 5

ケース会議（支援計画の作成に向けてとこれからの取り組みについて）

中学部1年 支援計画に基づきケース会議を実施した。本校では医療的ケアの生徒の経口摂取を行っていないこと、入学したばかりで体調面の実態把握や医療的ケアが軌道にのることが優先と確認した。しかし、これまでも食べていたことやSTのセラピーを受けていること。唾液の処理という観点からも口腔マッサージを始めていくこととした。

\* 口腔マッサージを取り組む

H29. 11

ケース会議（医ケアの進捗状況と近況・保護者の願いの共有）

ケース会議（生徒の健康状態について、口から食べることに向けて）

#### 生徒の実態

中学部より [ ] より転入。  
全身の筋緊張は高く、楽しいとき、不快なときなどは手足を上げて伝えることができる。  
豊成養護学校では給食のミキサー食を少量だが経口摂取し、残りを胃瘻部から注入。

#### 保護者の願い

真駒内養護学校でも友達と一緒に給食を食べたい。おいしさを感じさせたい。

口腔感覚と口腔内運動の動きと維持を支援計画短期目標に入れる。



#### 保護者説明

- 体調の安定・指導体制が整ったことを共有
- 主治医から味見についての可否など書類で回答してもらいたいこと

学校で作成した書類を保護者から主治医へ渡したところ  
医者からVFをとることをすすめられる。

#### 保護者懇談

- VF時の姿勢などについてなど



#### ケース会議（健康状況、医師からの指導・助言、今後の流れについて）

- \*保護者に来校の依頼
- \*時間を段階的に変更（体調等の変化を見る）
- \*保護者が食べさせ観察。教員が食べさせ、保護者待機
- \*家庭から持参した物を食べる
- \*実施前に管理職に確認を取る

## 保護者説明

これからの取り組みについて（ケース会議の内容）

### H30.2 観察開始

- \* 時間を変更しながら給食の時間に近づけていく。
- \* 自活教諭から担任へ移行

中学部1年2月 体調の把握、医療的ケアの安定を確認し、味見の取り組みを開始した。最初は、栄養注入でのゼロゼロの出現と区別するため、味見を昼の栄養注入時より、45分早く行い、その後少しずつ栄養注入に近い時間に移行させていった。保護者待機のもと、自活教諭、担任が実施する。自活教諭より、食べるときの姿勢や頸部の筋緊張のコントロールなどの介助等を教えてもらいながら進めた、

### H30.3 主治医に確認 受診同行

医ケアと経口での摂食について（時間や胃残確認の順番等）

↓

### H30. 4 ケース会議

(個別の指導計画の目標、中止中断の判断、今後の取り組みについて)

↓

#### 保護者懇談

○これからの取り組みについて

↓

### H30. 6 給食時間に経口摂食を実施

#### ◎ 医療的ケア指示書の更新(変更)

家庭から持参した物を、友達と同じ時間に口から食べられるようになる

#### 個別の指導計画(長期)

味覚を通して内面を豊かにし、コミュニケーションを広げることができる

#### 前期目標

- 表情や発声でおいしさや食べたい・食べたくない気持ちを伝えることができる
- 食べ物の提示でにおいを感じ、スプーンが近づくと開口し取り込み、教師の介助で閉口方向に口を動かし飲み込むことができる。

#### 前期評価

- おいしさを発声やで伝えることができた。
- 舌の動きが良いことが増え、口数が増えた
- 友達との時間の共有で喜びを表現することができた(同じ物を食べているとの会話に笑顔を見せる)

#### 後期目標

- 様々な味を感じて、好き嫌いを表情や声で伝えることができる。

#### 後期評価

- 様々な料理を食べることで友達とのやりとりが増え、味の違いによって表情の違いが見られようになってきている

### H3 1. 2 ケース会議（給食に向けての今後の取り組みについて）

- \* 給食のねらいについて整理する
- \* 学校として医療的ケアを必要とする生徒の給食について健康推進部で新年度提案があることを確認

中学部2年2月 安定して味見の取り組みが継続されていることから、給食を食べることについて検討。家から持参した物を1品から2品増やす。（おかずの水分類）また、給食を食べることのねらい、指導内容、目標を再度明確にする。・別紙 自立活動・給食の学習内表

学校長より、学校としての取り組みを待たずに給食を提供しても良いとの話がある。



### H3 1. 5 給食を開始

- \* ミキサーで出てくる物・とろみをつけて食べられるもの



### R1. 9 給食ミキサー食を注入開始

- \* ミキサーで出てくる物・とろみをつけて食べられるもの

給食を味わったあとに給食を胃腸部から注入。ラコールを注入していた時には、口から食べることにについては感情や意思の表出があったがラコール注入時は寝てしまうことが大半であり、注入自体を食事として受け止めている様子が見られなかったが、給食のミキサー注入になってからは、注入するごとに喜びや、満足感を発声や身振りで伝えることが多くなった。

### 前期目標

- 様々な教師に、美味しさを発声や身振りで伝えることができる。

### 前期評価

- 給食を味わうことができた。給食が食べられることがわかると、うれしさを声や全身で伝えることができた。また、担任だけでなく一緒に食べられる教師が増え関わりを広げることができた。

### 後期目標

- 好きなメニューを発声や身振りで伝えることができる。

### 後期評価

- 給食を食べるようになり、友達との給食メニューの話で声を出したり、好きな味を伝えたりしている。はっきりした味を好み、特にカレーやピリ辛のもので喜びを伝えることができています。
- \* 朝の会の給食発表にもより関心をもち、発声や身振りで期待やうれしさを表現することが増えた。

食に関する指導の全体計画 給食指導における「自立活動」の観点より（令和2年度 提案）本生徒のねらいになるものを抜粋

- ・「食に関する要求と表出」：食べたいものを選んで、人へ訴えることができる。  
(健・心・人・環・身・コ)
- ・「人と共に食べる喜び」：教師、児童生徒とのかかわりを楽しみ、共に食べることに喜びを感じ会話を楽しむ。  
(人・コ)
- ・「介助と支援の受け入れ」：介助や支援を受けることを受け入れることができる。介助で食べている児童生徒は介助法を整え、経年的に、さまざまな人からの介助を受け入れることができるよう育てる。  
(健・心・人・環・身・コ)
- ・「生活リズム他」：生活リズムや規則正しい食事時間の習慣化、覚醒、呼吸、排せつのリズムなどを整え、健やかな健康をつくる。  
(健)
- ・「摂食機能の維持向上」  
(健・環・身)
- ・「献立の受け入れ・味わうこと」：様々な献立（味、匂い、食感触等の感覚）を受け入れ、味わうことができる。  
(心・環)
- ・「食への意欲と口腔内感覚の拡大」：食への意欲を育てる、口腔内感覚の幅を広げる。  
(健・環)
- ・「栄養に関する医療的ケアを必要とする児童生徒の経口と食事場面の理解と共有」  
：医療的ケアによる栄養摂取（経鼻経管・胃瘻等）の児童生徒は、給食場面で他児童生徒

まとめ

給食指導は

- 継続して取り組むことができる
- 郷土料理や行事食など味わう経験ができる。
- 味覚が育つ
- 準備や後片付けに積極的になれる
- 友達や教師と給食メニューについて話題を共有できる  
(食べることでより感じられる)

給食時間に給食を食べることによって、意欲的に学習に参加し、様々な課題を達成させることができると考える。

\*この取り組みで、食事時だけでなく、唾液の飲み込みがよくなっているとの看護師からの話もいただいた。

## 研究のまとめ

「食に関する指導の全体計画」を日々の授業にどう生かすのか。

### ①各教科の年間指導計画→

食に関する指導の目標に関連する単元

単元計画に「食育の視点」を盛り込む

指導略案に「食育の視点」に関連した内容を記載する



※教科の目標を達成させるため、その過程に「食育の視点」

として、本校の全体計画の目標を盛り込む。



「食に関する指導の全体計画」を日々の授業にどう生かすのか。

### ②自立活動 →

摂食機能評価表による目標、内容、手立て、評価

## 今後の課題

- ・他の教科における食育の指導の充実
- ・個別的な指導、相談における指導の充実

# < 寄宿舍グループ >

## 1 テーマ、仮説

テーマ : 「時間を必要とする課題の達成に向けて」

～日常生活の中でじっくりと課題に取り組む～

仮説 : 実践研究として1年間で達成の見通しの難しい課題について、時間をかけ取り組んでいく。実態把握を行い、共通の理解のもと課題達成に向けて段階を追った指導として目標を設定し統一した指導を行っていく。日々の様子観察から指導方法や内容が合っているか合っていないかの確認をし、次の手立てや段階の移行までの時間を考えながらすすめていく。少しずつ段階を追って積み重ねることで、時間はかかっても最終目標の課題の達成につながり、卒業後の生活に生かすことができる考える。

## 2 内容と経過

○男女棟毎のケース研究とする。

○対象舎生は、前年度在籍していた舎生各棟1名。

(理由)新年度早々、臨時休校となったこと。また、教育機能の利用の舎生は6月中旬からの利用となり、週に1、2泊のため実態把握の期間を十分確保することが難しいため。

○進め方

男女棟ごとに7月と9月は(1)～(6)、11月は(7)(8)について話し合った。途中も随時話し合いを行い、話し合いの記録を棟ごとにファイルにしてきた。

(1) 対象舎生の課題 (2) 実態把握 (3) 指導方法と内容、配慮事項の確認

(4) 指導中の記録：棟ごとのファイルに記録していく (5) 舎生の変容の確認

(6) 指導方法と内容の見直し (7) 舎生の変容の確認 (8) 今後目指すところについて

## (1) 女子棟グループ

ア 課題について：「適切な言葉や動作でいろいろな人に意思要求を伝えることができるようになる」について

「何をしたいのか伝える。」「挨拶に答える。」に取り組む。

イ 舎生の実態：自分の要求や意思を単語のみで伝えようとする。挨拶やお礼の言葉を言うことはできるが、

自から伝える場面が少ない。

ウ 指導方法と内容：①「～をお願いします」と言う。②単語のみの時は「どうしたいのか」を伝えられる。

③「見たい」と言ったDVDは最後まで見る。④言葉が出るまで『待つ』。指導を行った。4年間の日常生

活指導の経過と今年度の実態を踏まえ、職員側の対応を統一することで、舎生の変化を女子棟で確認しな

がら、全体での共通理解を図ってきた。

男子棟の職員には、具体的な指導方法を提示し日常生活指導の中で統一した対応による協力をお願いした。

エ 指導していく上での配慮：①やりたいことの保障。②気持ちを察すること。③予告はしすぎない。

オ 舎生の変容：挨拶の返しが早くなった。新しい職員とのコミュニケーションが取れるようになった。気持ちの切り替えが早くなった。登校時の短い会話が成立するようになってきた。などの成長が見られた。

変容の要因として、4年間、家庭や寄宿舎生活で培われてきた経験に加え、週2回のリハビリ通院による新たな人や場所でのつながりが増えたことがあげられる。また、指導方法の4点を男女棟職員で押さえたこと。舎生が混乱せずに日常生活が送れるよう、配慮の3点を徹底したことも変化の一つと考えている。

カ 今後の目指すところ：寄宿舎での取り組みとして、卒業後の生活に繋がる指導を意識して行ってきた。支援を受けながら生活を送る上で、お互いにストレスなく生活することが望ましい。

そのためには支援者に理解してもらえる発信として、①本生の特性や好きなこと、できること、できそうなことを伝え、②本人が伝える手段としての「言葉」の必要性を感じ、自分から伝えられるようになることが必要であると考えている。

## (2) 男子棟グループ

- ア 課題について：「自分から誰にでも挨拶できるようになる」について「誰にでも挨拶できるようになる」ことに取り組んだ。
- イ 舎生の実態：自分からの挨拶は難しいが、相手からの挨拶に応えることができる。ヒントを出すなどきっかけがあると挨拶ができる。あらたまった場面や時間、場所、相手との関係性により挨拶をすることが難しくなることがある。視覚的効果の利用が効果的である。ほめられたいという気持ちがある。
- ウ 指導方法と内容：①相手からの挨拶に応える。②挨拶の必要性、大切さを粘り強く伝えていく。を重点に進める。舎生が見てわかるようにシールなどを利用し、称賛し意欲を高められるようにしていく。  
基本の挨拶を「おはようございます。」「ただいま」など9つに絞り、①挨拶を行い返してくるのを待つ。
- ②挨拶ができなかったら短時間待つかヒントを出す。③できたらほめる。を繰り返し行い、非常勤職員、寮務主任、舎監にも統一した対応をとってもらう。舎室担当職員は、「一番は自分から挨拶ができること」「挨拶は基本的な関わりであること」をその都度教え、挨拶はほめられるためではなく人間関係の基礎であることを本人に粘り強く説明し、シールなどは徐々にやめることを伝えていく。

- エ 指導していく上での配慮：①挨拶の場面が長くならないようにする。②挨拶ができない場合はその場の空気感を変える。緊張をほぐしていく。③挨拶ができるまで待つ。
- オ 舎生の変容：取り組む中でできたことが評価され学校散歩での挨拶も評価されたことで、挨拶をするまでの時間も短縮されてきた。また、突発的に「自分からの挨拶」が徐々に増えてきて、「はい」の返事や依頼、お礼にも良い影響が出てきた。シールなどをやめるときも、やめることを伝え続けてきたことにより、スムーズに受け入れることができた。さらに挨拶をすることに、「自信」が付いてきたことで他の人に対する「優しさ」を表出できるようになってきたと感じる。
- カ 今後の目指すところ：卒業後の進路先に寄宿舍での取り組みを伝えて舎生理解を図りたい。舎生には、一言伝えるだけで相手とのコミュニケーションになり、相手から不安視されないことを今後も伝えていく。難しいかもしれないが、「自分から要求を伝えられる」ようになってもらいたいと考えている。

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

1年間で達成の見通しの難しい課題に注目した取り組みは段階を追った指導として、女子棟は指導方法を一つずつ確認していく取り組み。男子棟は見通しの難しい課題の一部を変更することで、少しでも解決が可能な課題への取り組みを行った。

指導する際は、P D C Aのサイクルで進めることにより、その都度実態の確認、指導方法や内容が合っているか変えた方が良いのかの確認、次の指導の方向性を確認し指導していくことに根拠を持たせることができた。

各棟内では統一した指導や対応をとり、互いの棟の職員や非常勤職員にも指導方法や内容、配慮することを具体的に明確に示したことにより、共通理解がなされ協力して取り組むことができた。対象の舎生は実態より自分の要求を伝えられるため、「自分の考え」を持っていることがわかる。取り組みでは、「伝える」ことについて「～をしてください」と伝え方を教えることにより『自分は』『何を』『どうしたい』と伝え方を覚えながら伝わった経験を重ねることができ、「自分の考えを伝えよう」としてきている。自分の考えを伝えることで、他者とのコミュニケーションを図ることができ、「自分の考えを元に職員へ相談や確認をしながら、どのように生活をしていくかを考えられる」ようになってきている。

取り上げた2事例とも、時間を必要とする課題に対して段階的な取り組みを行ったことにより成果を上げることができた。これは、指導する内容を絞り、職員が共通理解し統一した指導や関わりをもったことが大きいと考えられる。

## (2) 課題

寄宿舎は個別の指導計画に沿って1年で到達可能な課題を目標として日々の指導を行っている。研究のテーマとして取り上げた「時間を必要とする課題」は、個別の指導計画の目標への指導に埋もれてしまいがちになってしまうことが課題となっていく。また、教育機能の活用による入舎生については、1年間の入舎のため目標がはっきりしている。そのため課題としてあがらないことも考えられる。

## (3) 今後に向けて

個別の指導目標の取り組みに埋もれてしまいがちな課題があることもわかったが、職員が共通理解し取り組んだことで、課題の達成までの道筋を考え教え積み重ねていけることもわかった。また、教育機能の活用による舎生の卒業後を考えると、目標以外の課題についても達成までのプロセスを学級担任や保護者と考えてその時にできる指導はあると考えられる。

埋もれてしまわないように課題を評価するときに、少しずつでも達成が可能となる課題へと変えていくことを含めて考えたり、卒業後の生活へつなげられる取り組みを引き継いだりすることで、1年間で達成の見通しの難しい課題の達成へつなげられると考える。



# まとめ

- 1.<今年度のまとめ>
- 2.<2カ年のまとめ>
- 3.<次年度の方向性>

# 1.<今年度のまとめ>

# <今年度の研究のまとめ>

① 単元指導計画の書き方が分かる。  
→ 単元指導計画の様式決定（全校共通）

② 3観点に沿った評価ができる。  
→ 分かりやすい、簡単

◎ 単元計画様式の決定

③ 授業作りにおいて工夫すべきこと、配慮すべきことが分かる。

◎ 指導の工夫に関する評価

④ 次年度の年間指導計画の見直し、指導すべき内容の修正

◎ 指導すべき内容の修正

# 先生方からの 意見①を受けて 修正

●本単元にかかわる情報

●単元のねらい及び評価規準

単元指導計画(案)							
教科名(教科名)	学部	部	学年	年	グループ/教育課程	指導時期	
単元・題材名	学習指導要領との関連		教科名	科	段階	指導コマ数	コマ
			内容				
育てたい力「生きる力の五要素」 ※重視する力を網かけ。							
きめる力	<u>見る聞く感じる力</u>	伝える力	つながる力	やる気元気			

## ●単元のねらい及び評価規準

単元(題材)のねらい	
観点	段階
知識及び技能	
思考力,判断力,表現力	
学びに向かう力,人間性等	
単元(題材)の評価規準	
観点	段階
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

# ●単元の構成及び評価の計画

## ●単元の構成及び評価の計画

○：指導の重点及び評価の観点

次	日 時	おもな指導内容	知	思	主

- 児童生徒の **学習評価**  
 <個別の評価> ・ ・ (別紙に記入) ↓

- **児童生徒の評価** ・ ・ ・ ・ 「**学習評価**」
- **教師（授業者）の評価** ・ ・ 「**授業評価**」

○学部○年／グループ( ) 教科

評価 十分達成:◎、おおむね達成・継続指導:○、欠席・評価できず:-、有効な手立て・配慮事項(箇条書き)↓

単元	単元の評価規準	生徒 A 個別の手立て・配慮等	生徒 B 個別の手立て・配慮等	生徒 C 個別の手立て・配慮等	生徒 D 個別の手立て・配慮等	生徒 E 個別の手立て・配慮等	生徒 F 個別の手立て・配慮等
知							
	思						
	主						
単元	単元の評価規準	生徒 G 個別の手立て・配慮等	生徒 H 個別の手立て・配慮等	生徒 I 個別の手立て・配慮等	生徒 J 個別の手立て・配慮等	生徒 K 個別の手立て・配慮等	生徒 L 個別の手立て・配慮等
知							
	思						
	主						

●~~授業の工夫に対する評価~~ **授業評価**  
 <授業作りの5つの視点>

- 児童生徒の評価・・・「学習評価」
- 教師（授業者）の評価・・・「**授業評価**」

●~~授業の工夫に対する評価~~ **授業評価**  
 <授業作りの5つの視点>

◎良い ○おおむね良い △指導改善を要する

授業評価の視点	内容	評価	課題と改善策
物理的 環境支援		◎	
補助的 手段		◎	
人的支援	項目は、今年度のグループ研修の成果から決定する。変更あり。	◎	
学習機会		◎	
多様な 評価		◎	
次年度に向けて	単元・題材      よい      ・      変更が必要	時数	よい      ・      変更→ (      )

枠はこのまま  
使用!!

# <単元計画（様式）作成スケジュール>

①教務部と連携し、単元計画（案）を作成



②各教科の研究グループに使用してもらい、意見集約



③教務部と連携しながら、修正

意見①

④全校に提案（教務部） ⇒ 12/8



⑤次年度から使用...

意見②

## 意見②

### 単元指導計画について

- ・ 12,8に全校研究会を実施。
- ・ 説明、意見・質問をきくためのアンケートの実施



不安がある

うまく記述できるか？  
負担が増えるのでは？

具体例があると良い

記入の仕方について、  
十分に理解できていない

評価規準の立て方などについて  
研修の場が必要

・・・などの声をいただいた

# 意見②

次年度、引き続き意見集約しながら、課題解決を目指していく

4 / 26  
予定、  
Zoom

評価規準の立て方などについて  
研修の場が必要

記入の仕方について、  
十分に理解できていない

具体例があると良い

不安がある  
うまく記述できるか？  
負担が増えるのでは？

準ずる教育課程の教科指導  
※指導計画、**評価**規準⇒指導書に掲載

外部講師による研修会  
※内容についてアンケート実施済み

先生方の要望を聞きながら複数回の実施

- ・授業実践を通して、手順の定着を図る。
- ・中間報告を実施し、他のグループについても知る。
- ・教務部に質問、確認しながら行う。

グループ研究の時間を作成に当てるのもあり。

# <今年度の研究のまとめ>

① 単元指導計画の書き方が分かる。  
→ 単元指導計画の様式決定（全校共通）

② 3観点に沿った評価ができる。  
→ 分かりやすい、簡単

◎ 単元計  
画様式  
の決定

③ 授業作りにおいて  
工夫すべきこと、配慮すべきこと  
が分かる。

◎ 指導の工夫  
に関する評価

④ 次年度の年間指導計画の見直し、  
指導すべき内容の修正

◎ 指導すべき  
内容の修正

★様式は12/8に提案したものを使います。  
※次年度も引き続き意見集約しながら研修を進める。  
※評価規準の立て方については、研修を設定します。



【全校共通の様式（メリット）】

- 学部が変わっても困らない。
- 全校が同じ項目で検討できる。

※共通項目（必要最小限）を確認することができた。

# <今年度の研究のまとめ>

① 単元指導計画の書き方が分かる。  
→ 単元指導計画の様式決定（全校共通）

② 3観点に沿った評価ができる。  
→ 分かりやすい、簡単

◎ 単元計  
画様式  
の決定

③ 授業作りにおいて  
工夫すべきこと、配慮すべきこと  
が分かる。

◎ 指導の工夫  
に関する評価

④ 次年度の年間指導計画の見直し、  
指導すべき内容の修正

◎ 指導すべき  
内容の修正

# 授業全般

## 自立活動教諭グループからの視点

5つの視点	語句の定義	工夫・配慮 (項目)	工夫・配慮 (具体例)
物理的環境 支援	○できる状況づくり ・理解しやすく、学びやすい環境 ・注意を向けやすい環境 ・指導しやすい環境 ・安全面、衛生面を考慮した環境	・ <u>姿勢の安定</u>	<u>臥位、座位、立位、歩行等の補装具の使用、姿勢保持の工夫</u>
		・ <u>上肢の設定</u>	<u>姿勢、机の高さ、コルセットの活用、U字クッション、スリングの活用等</u>
		・ <u>刺激の調整</u>	<u>視覚・聴覚・触覚・固有感覚の調整（パーテーション、席の配置、明るさ等）</u> 児童生徒が活動に集中できる環境作り
		・ <u>教室内の配置</u>	安全面・衛生面の配慮、活動に合わせて学びやすい環境、MT・教材の配置 【動きのある学習活動】交流しやすい座席・通路等の配置、自分で動ける環境の整備
		・ <u>机上、教材の整理</u>	机上の整理、場面に応じた教材の出し入れ、教材を操作しやすい学習環境

自立活動教諭グループからの視点

5つの視点	語句の定義	工夫・配慮 (項目)	工夫・配慮 (具体例)
補助的手段	○個の力を十分に発揮するための手段。 ・支援ツール。 ・ICT機器の活用。	・ <u>自助具・補助具</u> ・ <u>感覚支援機器</u>	スプーン、箸、筆記具等、児童生徒が操作できた実感を得られるような器具や補助具の工夫・調整 眼鏡、補聴器、イヤマフ等 【聴覚、視覚に障がいがある児童生徒への配慮】 聴覚：手話や指文字を整理、文字等視覚補完      視覚：聴覚(音声言語や音)や触覚での補完
		・ <u>コミュニケーションツール</u>	タブレット、コミュニケーション機器、カード等 【実態に合わせた表現】自分の考えを伝える手段、イラスト・文字・単語の選択
		・児童生徒に合った教材 ・活動の見通し	大きさ・形・素材への配慮、五感に訴える教材、児童生徒に合わせてルールや教材を簡略化 エラーレスな用意、個の力（見え方、操作性）を発揮しやすいICT機器 【展開】単元構成・学習の流れの工夫 【意欲】目標物を置き視覚的に活動をわかりやすくする 【身体の動きの補完】基礎的技能を知識として習得する
		・視覚教材	【視覚教材】デジタル教材、パワーポイント資料、関係性（関連）を視覚的に伝える工夫 演示方法の工夫、動画での演示、実物や具体物を提示、写真の活用 色楽譜、音階体操、イメージしやすい形状・立体感を伝える ICT機器（アイパット等）を用い自分の活動を見て、動きの修正・意思の表出 選択肢をわかる、背景をかえる、映像やイラストのわかりやすさ 航空写真、CCDカメラで下から撮る動画等の活用

◎授業全般

自立活動教諭からの視点..

5つの視点	語句の定義	工夫・配慮 (項目)	工夫・配慮 (具体例)
人的支援	○ねらいに応じた適切な指導者数。 ○ねらいに応じた適切なかかわり。 ・言葉かけ。 ・支援のタイミング。 ・支援量。 ・MT、ST役割。 ・TT共通理解。	・実態把握	【適切な支援方法】既習事項、指導内容の理解、集中できる時間、発達段階、学習内容の得意不得意 集団の実態差 【必要最小限の支援】教師が手を貸しすぎず見守る場面 【表現を代弁する】児童生徒の学習中の良さを評価、表情や動きを見逃さない
		・注目を促す	教材を出すタイミング、効果音、注目させてから話し始めたり選択させたりする、適切な情報量・教材の量 選択肢の数、絵カードの提示の位置（上下左右）
		・教師の話し方	短く、わかりやすく、驚いたり感動を伝えたりする、興味を引きつける、STの活用
		・適切な指導体制、人数 教師の役割	【集団作り】同じ基盤で話が進められるようなグルーピング 【適切な指導体制】児童生徒に応じたねらいを達成するのに適切な指導体制・人数、 STの人数を最低限にする 【教師の役割】MTは全体が見える場所で指導する、MTとSTの役割の明確化、教師の雰囲気作り

5つの視点	語句の定義	工夫・配慮 (項目)	工夫・配慮 (具体例)
学習機会	○学びの機会が十分にある授業。 (受け身でなく、十分な活動を設定する)。	・話、映像の視聴	話や映像の選択（見通し、長さ、わかりやすさ）、生活に身近な内容 把握のさせ方（注目してほしい場面で止める、サイン・カード・動き）
	○人との協調ややりとりの機会が豊富にある授業。	・体験的活動	【ゲーム的な活動】クイズ形式・パズル・ゲーム、教材を自分で操作する活動 【生活に結びつく内容】実物の使用、動画+具体物などリアルな内容、生活場面に生きる内容 【実体験】実際に目に見えて触れられる教材に関わる活動、道具を操作したり触れたりする場面 自発的な動きを引き出す活動 【体験の前後の活動】 前：実験の予想、児童生徒の興味や既習知を活用、考えをまとめる時間、 友達同士で相談、自分の考えを発表する場面を設定、活動の準備を児童生徒が行う 後：活動の振り返り、正誤の伝え方、継続的な学びで取り組みの成果を確認 片付けを児童生徒が行う、体験的学習から生活と教科を結びつける デジタル教材と経験したことを比較
		・友達の活動から学ぶ	友達の活動を見て考える場面を大切にする

5つの視点	語句の定義	工夫・配慮 (項目)	工夫・配慮 (具体例)
多様な評価	○自己評価 ○他者評価 ○相互評価 . ・多重の評価 (学校や家庭などにおいて賞賛される機会がいくつもある)	・自己評価	【ねらい】ねらいを明確にして評価をする、目標物を決め自己評価をしやすくする 【まとめる】ワークシートにまとめる、わかったことを発表する 【成功体験】成功体験を多く積めるようにする、肯定的な気持ちを育てる
	・教師からの評価	児童生徒が自分では言葉にしない表現についてフィードバックする、児童生徒が失敗した時の対応	
	・友達からの評価	友達同士が良さに気付けるような機会・発表、「自分なら」と当事者意識を持たせる 友達の活動を見て考える場面を作る、友達の作品の鑑賞の工夫	
	・発表会	互いの演奏を聴き合う場面を作り評価する、学習のねらいに対する評価をする	



# 授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」(5つの視点)

## 各教科

### ◎国語

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・刺激の調整	視覚・聴覚・触覚・固有感覚の調整(パーテーション、席の配置、明るさ等)
	・教室内の配置	言語活動・交流しやすい座席、通路等の配置、教材を操作しやすい学習環境
補助的手段	・コミュニケーションツール	イラスト・文字・単語の選択、選択肢の提示方法 選択の方法、絵カード等の提示の位置(上下左右)、手掛かりの提示、正誤を伝える方法
	・児童生徒に合った教材	重要な物は別に提示する(ペープサート等)、五感に訴える教材(視覚だけでなく聴覚、触覚) 大きさ・形への配慮
	・活動の見通し	単元構成と学習の流れの工夫
人的支援	・実態把握	集中できる時間、興味が持てる内容 児童生徒の学習中の良さを評価し全体に伝える(笑顔、発声、よく見ていた、つぶやきの内容) 既習事項、指導内容の理解、集団の中での実態差、学習内容の得意不得意
	・注目を促す	児童生徒によっては直前に教材を出す、効果音を入れる等、一つ解決できたら教材・問題を増やす等
学習機会	・話、映像の視聴	話の選択(見通し、長さ、わかりやすさ)、把握のさせ方(注目してほしい場面で止める、サイン・カード・動き)
	・体験的活動	クイズ形式・パズル・ゲーム、教材を自分で操作する活動
	・実態差に対する対応(集団)	個人で課題に取り組みその後集団で交流する、ヒントの出し方のルールや手本、辞典や教科書の活用
多様な評価	・教師の評価	児童生徒が自分では言葉にしない表現についてフィードバックする
	・友達の評価	友達同士が良さに気付けるような出題の工夫、良さを発表できる機会

### ◎算数・数学

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・刺激の調整	視覚・聴覚・触覚・固有感覚の調整(パーテーション、席の配置、明るさ等)
	・教室内の配置	安全面、衛生面への配慮、学びやすい環境
補助的手段	・コミュニケーションツール	個の力(見え方、操作性)を発揮しやすいITC機器
	・視覚教材	デジタル教材の活用(視覚・聴覚で感じたことを教材を通して気付かせる)
人的支援	・適切な指導体制、人数	児童生徒に応じたねらいを達成するのに適切な指導体制、人数
学習機会	・体験的活動	体験的な学習を通して生活と教科を結びつける(数に着目させ数のまとまりや数え方に気付かせる等)
多様な評価	・友達の評価	個に応じて発表の仕方を工夫し友達の考えに関心を持たせる、友達同士の良さに気付かせる
	・教師の評価	児童生徒が失敗した時の対応を考えておく

# 授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」(5つの視点)

## 各教科

### ◎生活

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・姿勢の安定	学習に合った姿勢の工夫
	・机上、教材の整理	場面に応じた教材の出し入れや服装の準備、机上の整理
補助的手段	・感覚支援機器	聴覚：手話や指文字を整理、視覚：聴覚(音声言語や音)や触覚での補充
	・コミュニケーションツール	自分の考えを伝える手段、イラスト・文字・単語の選択、自分にとってわかりやすい画像の選択
	・視覚教材	映像やイラストのわかりやすさ
人的支援	・適切な指導体制、人数	同じ基盤で話が進められるようなグルーピング
学習機会	・体験的活動	校外学習の必要性、五感を使う活動、繰り返し経験する、体験の後考える時間の確保、実物の使用、動画+具体物などリアルな内容、意欲を高める教材、日常でよく目にする内容、生活場面に生きる内容
	・生活に結びつく題材	地下鉄学習の前に乗り方を調べる学習(必要な画像は生徒が選ぶ) 学習場所の地図作り(実際の教室の写真を児童生徒が撮影する)
多様な評価	・友達の評価	取り組みの様子を動画で振り返りお互いに賞賛できる場面設定

### ◎社会

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・姿勢の安定	工房椅子等を活用した姿勢保持の工夫
補助的手段	・コミュニケーションツール	クイズ形式での選択、○×カード等
	・視覚教材	視覚的支援、選ぶ際にわかりやすく選択肢を分ける、背景をかえる 航空写真、CCDカメラで下から撮る動画等の活用 作業工程の説明で実際に <u>行っている</u> 写真を活用する、教師の演示、児童生徒が教師と一緒に演示してもらう 地図作りでは何を <u>作っている</u> かイメージしやすいように作るものと形状・立体感が近い写真を提示する
人的支援	・教師の話し方	注目してから話したり選択させる、驚いたり、感動を伝えたりする、興味を引きつける、STを活用する
学習機会	・体験的活動	デジタル教材を活用し、実際に歩いた写真と比較する、クイズ形式
多様な評価		

# 授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」(5つの視点)

# 各教科

◎理科

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・刺激の調整	児童生徒が目の前の活動に集中できる環境作り
	・教室内の配置	児童生徒が互いに見合える配置
補助的手段	・児童生徒に合った教材	児童生徒自身が操作しやすく自分で取り組める実験装置の工夫
	・活動の見通し	実物や具体物を提示し活動をわかりやすくする、単元構成の工夫
	・視覚教材	関係性(関連)がわかりやすいように視覚的に伝える。パワーポイント資料等、言葉だけではなく映像で意欲化を図る。ITC機器の活用、NHK for school
人的支援	・実態把握	児童生徒が今までに学んできたこと、既存知識を生かせるようにする、発達段階や興味関心
	・教師の話し方	個に応じた教材、ワークシート、教師が手を貸しすぎず見守る場面 短く、わかりやすく
学習機会	・体験的活動	実際に目に見えて触れられる教材に関わる活動、授業に一度は実験や観察など道具を操作したり触れたりする場面を作る 実験の予想をする、考えをまとめる時間や友達同士で相談する時間を持つ
	・生活に結びつく題材	生徒の興味や既習知を活用 植物の生長の導入でアニメ(トトロ)の活用等
	・意欲を持たせる工夫	「自分なら」と当事者意識を持たせる、考えやすい、考えて楽しい問い(クイズ等)、実験方法を考える
多様な評価	・友達の評価	取り組みの様子を動画で振り返りお互いに賞賛できる場面設定
	・自己評価	わかったことをワークシートにまとめる、わかったことを一つ発表する
	・クイズ等の答え	クイズの正解発表も評価となる。

◎音楽

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・教室内の配置	安全面、衛生面、学びやすい環境、教材やMTが見やすい配置、TV(視覚教材)が見やすい座席配置
補助的手段	・視覚教材	色楽譜、音階体操(全学年境地字の色を使用し系統性をもって学習に取り組めるようにする。)
		動画演示(歌詞のイメージを膨らませる) 手話表現の演示を映像で行う(STではなく映像を見て模倣する、生徒によってわかりやすい表現に変える)
人的支援	・適切な指導体制、人数、教師の役割	必要な支援のみにし、STの人数を減らす、自分たちだけで歌えるように支援を減らしていく
学習機会	・体験的活動	継続的な学びで取り組みの成果を確認、自分の考えを発表する場面を設定
多様な評価	・友達の評価	互いの演奏を聴き合う場面を作り評価する
	・自己評価	学習のねらいに対する評価をする
	・発表会	文化祭等で発表の場を設け、他者評価を得る

# 授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」(5つの視点)

## 各教科

### ◎図画工作・美術

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・刺激の調整	視覚・聴覚・触覚・固有感覚の調整(パーテーション、席の配置、明るさ等)
	・教室内の配置	安全面、衛生面への配慮、MTが見やすい配置
補助的手段	・児童生徒に合った教材	絵の具、木工用ボンドなどの最適な調整や容器の工夫、エラーレスな用意(水をこぼす、絵の具が固い)
人的手段	・実態把握	必要最低限の支援
	・教師の話し方	わかりやすく短い説明
学習機会	・体験的活動	適切な活動時間(30~40分)、集中できるように活動(色塗り等)の中に道具の使い方の工夫、色を変える 等間延びしないように
	・友達の活動から学ぶ	友達の作品の鑑賞を行う
多様な評価	・自己評価	肯定的な気持ちを育てる

### ◎体育

5つの視点	工夫・配慮(項目)	工夫・配慮(具体例)
物理的環境支援	・教室内の配置	打つ等運動を行う順番に児童生徒が並ぶ、安全に運動できるよう間隔をとるため、居る場所に目印をつける 活動が見えるよう場所に児童生徒が居るようにする、自分で動ける環境の整備
補助的手段	・児童生徒に合った教材	児童生徒に合わせて運動のルールや教材を簡略化する 児童生徒が運動した実感を得られるような器具や補助具の工夫・調整
	・活動の見通し	手本を見せ、活動のイメージを持たせる、基礎的な技能の習得
	・視覚教材	ICT機器(アイパッド等)を用い自分の活動を見て、動きの修正・意思の表出 目標物を置き視覚的に活動をわかりやすくする
人的支援	・実態把握	技能面だけではなく意欲的に参加する姿勢を評価する、表情や動きを見逃さない、過度な支援を控える
	・教師の役割	MTは全体が見える場所で指導する、教師が手本を見せてから活動する、MTとSTの役割の明確化 教師の雰囲気作り
学習機会	・体験的活動	自発的な動きを引き出す、準備・片付けを児童生徒同士で行い人間関係の形成、協調性の育成を図る
	・友達の活動から学ぶ	友達の活動を見て考える場面
多様な評価	・友達の評価	友達の活動を見て考える場面を作る
	・自己評価	ねらいを明確にしてねらいに対する評価をする、目標物を置き自己評価をしやすいようにする、成功体験を多く積めるようにする

# <今年度の研究のまとめ>

① 単元指導計画の書き方が分かる。  
→ 単元指導計画の様式決定（全校共通）

② 3観点に沿った評価ができる。  
→ 分かりやすい、簡単

◎ 単元計画様式の決定

③ 授業作りにおいて工夫すべきこと、配慮すべきことが分かる。

◎ 指導の工夫に関する評価

**作ったもの（研究の成果）を活用しましょう!!**

④ 次年度の年間指導計画の見直し、指導すべき内容の修正

◎ 指導すべき内容の修正

各教科Gで出された、「工夫すべきこと・配慮すべきこと」  
↓  
まとめ、次年度活用できるものにする。  
※真駒内スタンダード（授業作り）

**授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」**

1. 授業全般
2. 教科ごと

※いずれも暫定版  
⇒次年度以降：修正・簡略化あり

# <今年度の研究のまとめ>

① 単元指導計画の書き方が分かる。  
→ 単元指導計画の様式決定（全校共通）

② 3観点に沿った評価ができる。  
→ 分かりやすい、簡単

◎ 単元計画様式の決定

③ 授業作りにおいて工夫すべきこと、配慮すべきことが分かる。

◎ 指導の工夫に関する評価

④ 次年度の年間指導計画の見直し、指導すべき内容の修正

◎ 指導すべき内容の修正

「指導すべき内容」の修正は次年度へ。  
※別グループで設定。

※年間指導計画から整理、修正を行う。

## 2.< 2カ年計画のまとめ >

# 【研究主題】

2年目 / 2カ年計画

## 根拠のある**学習評価**を目指して

～日々の授業と教育課程の改善をつなげるための**仕組み**をつくる～

①**教科  
グループ**

②**自立活動  
グループ**

授業改善

③**別グループ**

①教科  
グループ  
1 / 2

【各教科の指導すべき内容】

A 学習内容構成表の作成

学習指導要領

B 教科の内容の発展・関連図  
の作成

小学部 1 段階  
～中学部 2 段階の整理

C 指導すべき内容の整理

現在ある年間指導計画の  
チェック

学部をこえた系統性

個別の指導計画の目標設定  
年間指導計画の見直し

中間報告

最終報告

①教科  
グループ  
1/2

【各教科の指導すべき内容】

A 学習内容構成表

B 教科の内容の発展・関連図

学習指導要領

小学部 1 段階

～中学部 2 段階の整理

活用

C 指導すべき内容

現在ある年間指導計画の  
チェック

参考

①教科  
グループ  
1/2

【各教科の指導すべき内容】

●指導すべき内容

- ※知的小1段階～3段階、中1段階～2段階 系統性
- ※音楽、図工・美術、体育、生活、理科、社会、国語、算数・数学、高等部合わせた指導【生活単元学習】

- ・学習指導要領を読む機会となった。（現在元年度の年計をもとに検証）
- ・学習グループが同じであっても、児童生徒の実態に応じて目標が異なることを押さえた。

★2年度の年計に反映させるものにならなかった。

実践しながら修正!!

# <2年目 / 2カ年計画>

## ①教科 グループ 2 / 2

① 単元指導計画の書き方が分かる。  
→ 単元指導計画の様式決定（全校共通）

【全校共通の様式（メリット）】

- 学部が変わっても困らない。
- 全校が同じ項目で検討できる。  
※ 共通項目（必要最小限）を確認することができた。

② 3観点に沿った評価ができる。  
→ 分かりやすい、簡単

◎ 単元計画様式（全校統一）の決定

③ 授業作りにおいて工夫すべきこと、配慮すべきことが分かる。

◎ 授業づくりで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」（5つの視点）表  
⇒ 真駒内のスタンダード（暫定版）

~~④ 次年度の年間指導計画の見直し、指導すべき内容の修正~~

~~◎ 指導すべき内容の修正~~

【次年度】  
◎ 別グループで設定

## ②自立活動 グループ

1 / 2

# 【自立活動における学習評価】

A 自立活動実態表の作成

生活年齢、発達年齢

課題関連図

B 活動分析表の作成

記録の累積

授業・指導実践

自活教諭との連携

学習評価

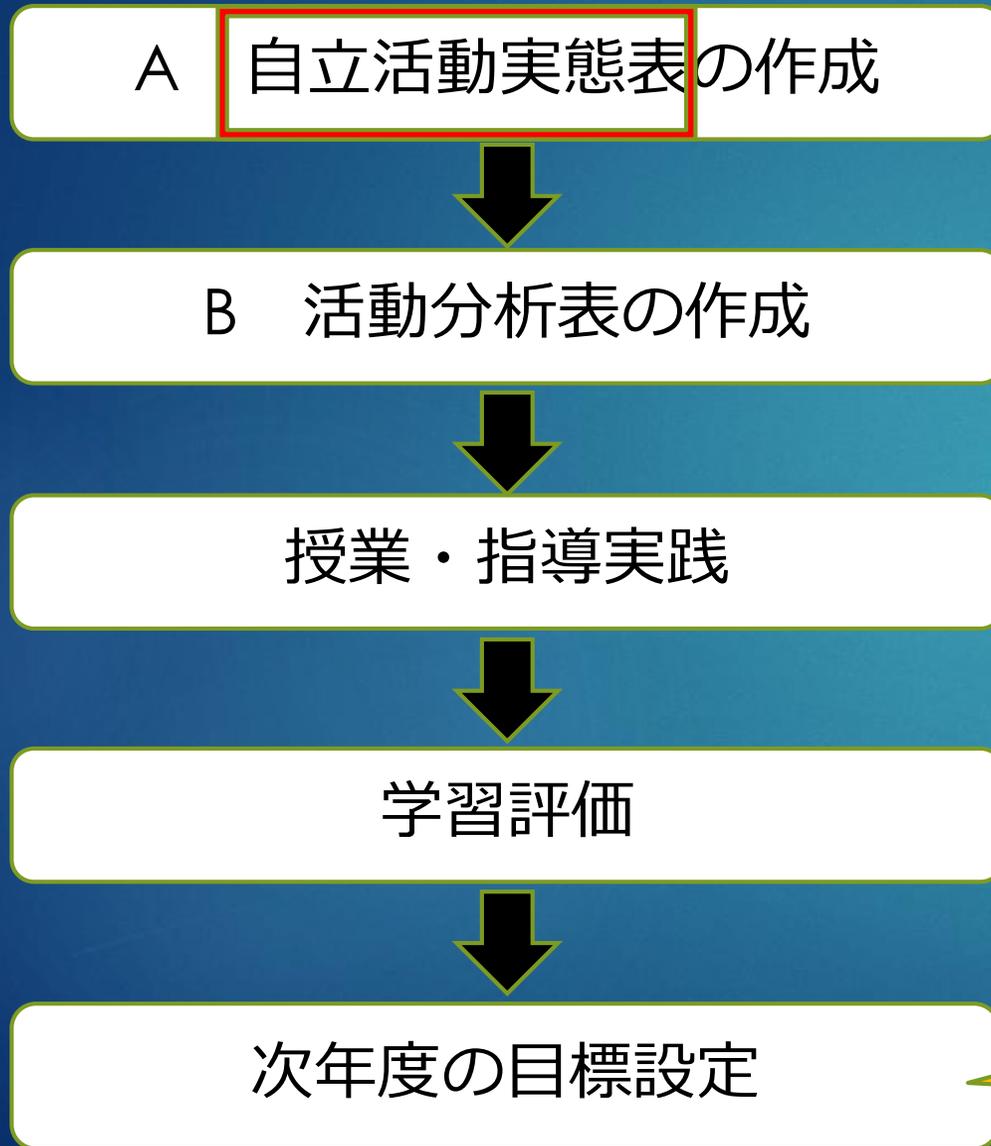
複数で評価

次年度の目標設定

変容を  
「自立活動実態表」  
に記載

# 【自立活動における学習評価】

## ②自立活動グループ 1 / 2



自立活動実態表を作成することで手順が見える。

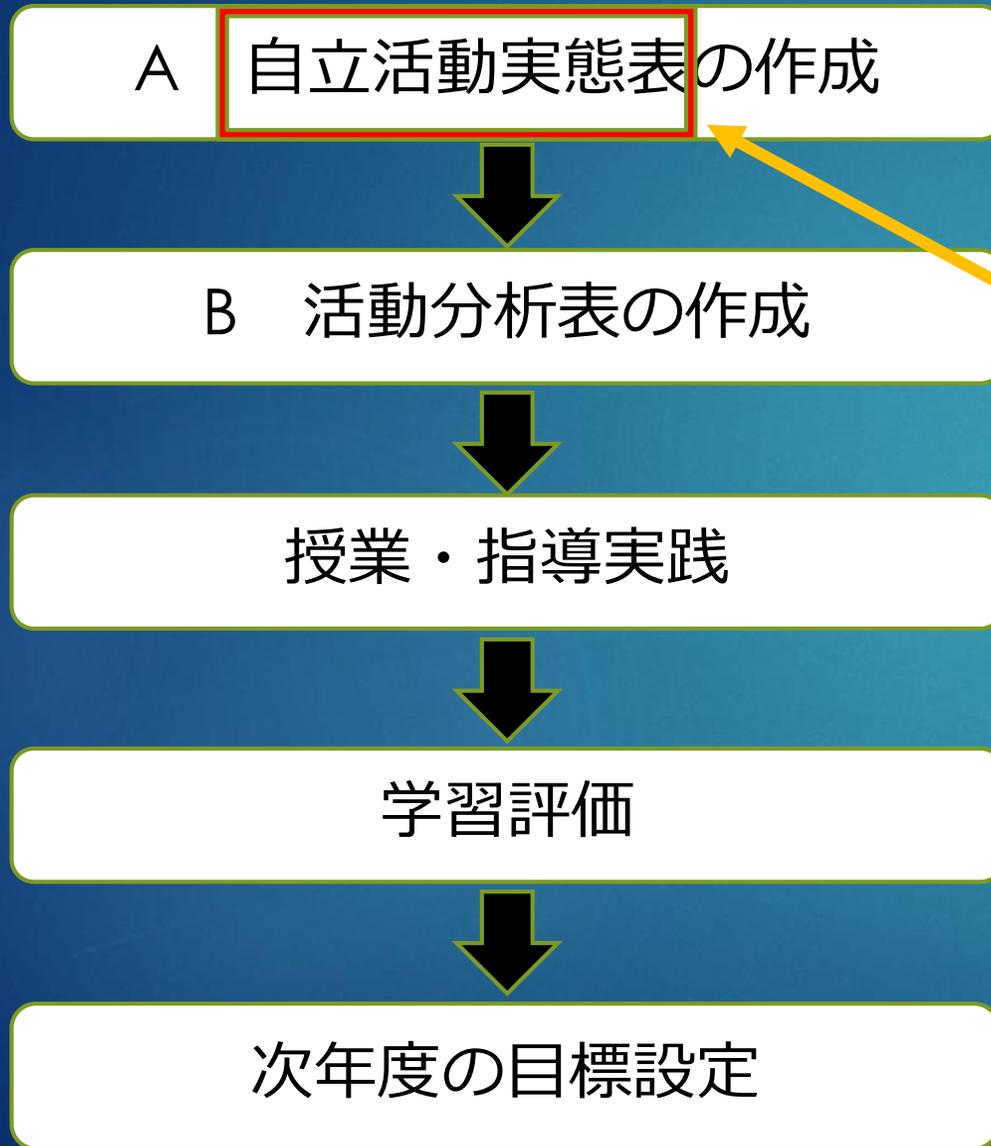
児童生徒の実態に応じて工夫する必要がある。

記録の累積を行うことで、複数の目により評価ができる。

全校で「自立活動実態表」を作成し、自活教諭との連携のもと進める。

# 【自立活動における学習評価】

## ②自立活動グループ 2 / 2



### 自立活動教諭 グループ

- (1) 自立活動実態把握表の記入方法、及び目標の設定までの流れについて
- (2) 自立活動実態把握表記入例を作成

# (1) 自立活動実態把握表～記入方法について

別記様式 1：自立活動実態表。

学部・学年・氏名： 学部 年

診断名（疾患名）	*診断名や障害名を記載。
調査等の結果	*知的発達や身体発育の状態、聴覚等の情報（様式2等）を記載。
個別の教育支援計画における支援の目標（長期）	*個別の教育支援計画 支援の目標（長期）を記載。
自立活動における学びの履歴	*昨年度の個別の支援計画の経過。 （*これまでの学びで身についたこと、身につかずあること、身につけていないこと等について）。

\*ア～キの7つの観点で収集した情報や経験について、自立活動内容の6区分27項目に関連する内容は、行末に区分、項目を1(1)等と記入する。

1 健康の保持 (1)生活のリズムや生活習慣の形成。 (2)病気の状態の理解と生活管理。 (3)身体各部の状態の理解と美観。 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整。 (5)健康状態の維持・改善。	2 心理的な安定 (1)情緒の安定。 (2)状況の理解と変化への対応。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲。	3 人間関係の形成 (1)他者とのかわり合いの基礎。 (2)他者の意図や感情の理解。 (3)自己の理解と行動の調整。 (4)集団の参加の基礎。
4 感覚の把握 (1)保有用の感覚の活用。 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用。 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動。 (5)認知や行動の手探かりとなる概念の形成。	5 身体の動き (1)姿勢と運動・動作の基本的技能。 (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用。 (3)日常生活に必要な基本動作。 (4)身体の移動能力。 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行。	6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力。 (2)言葉の反応と表出。 (3)言葉の形成と活用。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用。 (5)状況に応じたコミュニケーション。

ア 健康状態	*体調や生活リズム、医療的ケアの状況について。
イ 姿勢や運動・動作	*基本的な姿勢・運動・動作・変形等の状況、補助的手段の活用について。
ウ 日常生活の基本動作	*移動能力や補助的手段の活用、移乗動作の状況、食事・排泄・衣服の着脱等の状況について。
エ 作業の遂行	*上肢の運動・動作・補助的手段の活用について。
オ 感覚・知覚	*障害への応答、視・聴機能の状況や補助及び代行手段の活用について。
カ 人との関わり・コミュニケーション	*基本的信頼関係や人との関わり、集団参加、場面や相手に応じたコミュニケーションについて。
キ 言語理解・言語表出	*言語理解（読字含）と言語表出（発声、表情、動作、サイン、音声言語、機器を併用した代替手段を含む）について。

実態

目標設定までの  
流れ・整理

目標設定の根拠	
時間の指導目標	選択した自立活動の項目に関連付けた具体的な指導内容を設定する。
生活場面での指導目標	

目標設定の根拠

時間、及び生活場面での  
指導目標



## ②自立活動グループ

2 / 2

# 【自立活動における学習評価】

- ・ 目標の設定までの流れ
- ・ 目標設定のポイント
- ・ 自立活動実態把握表記入例

追加

自活教諭との連携

A 自立活動実態表の作成

生活年齢、発達年齢

課題関連図

B 活動分析表の作成

記録の累積

授業・指導実践

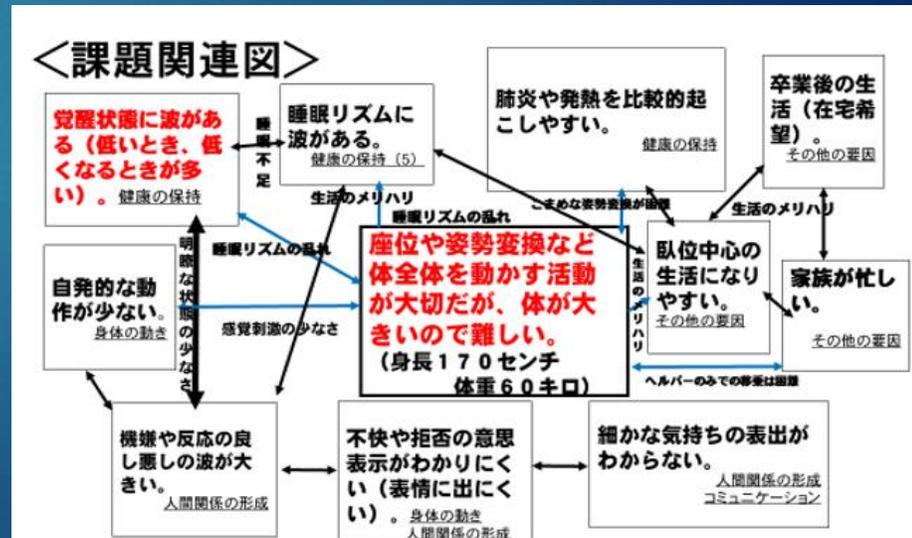
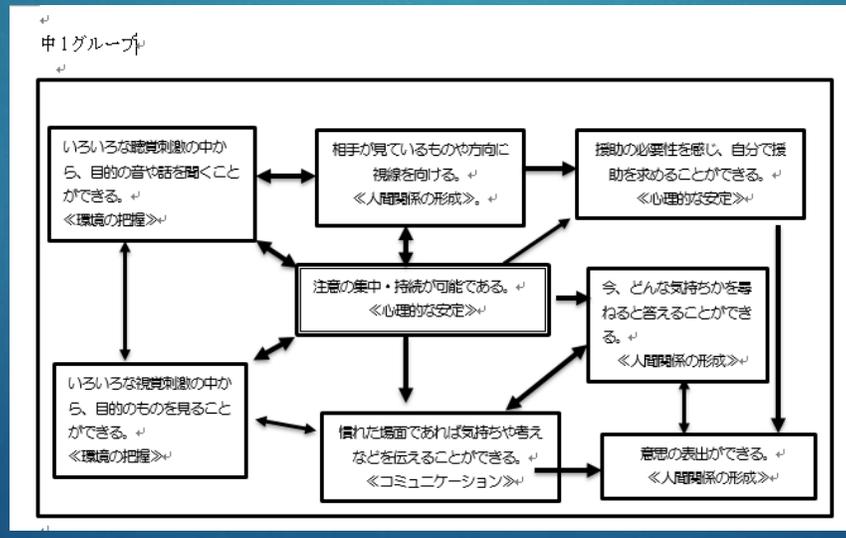
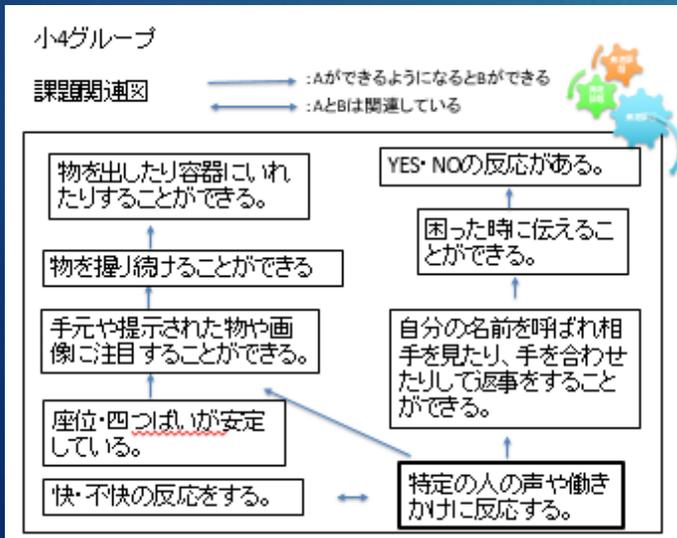
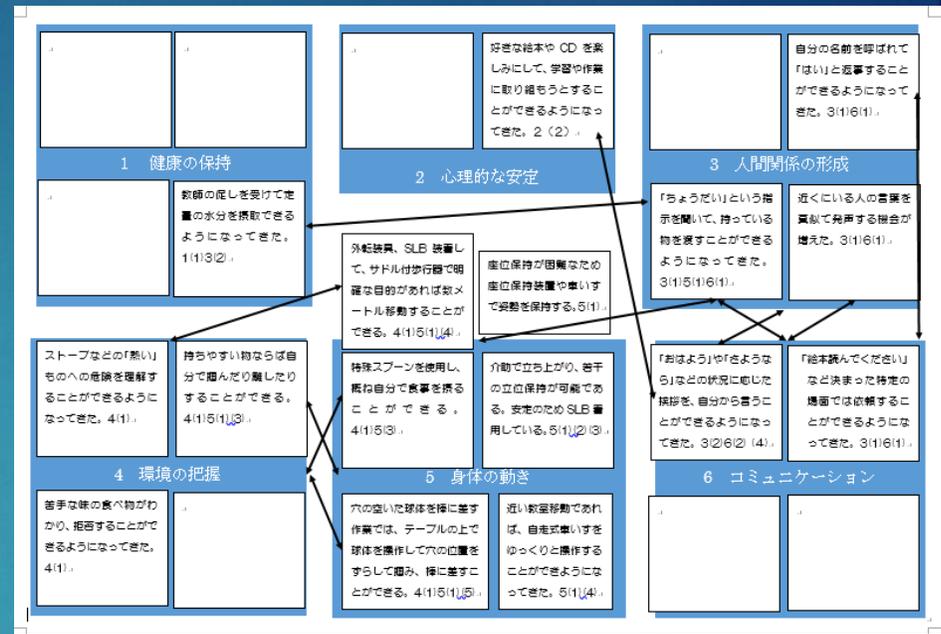
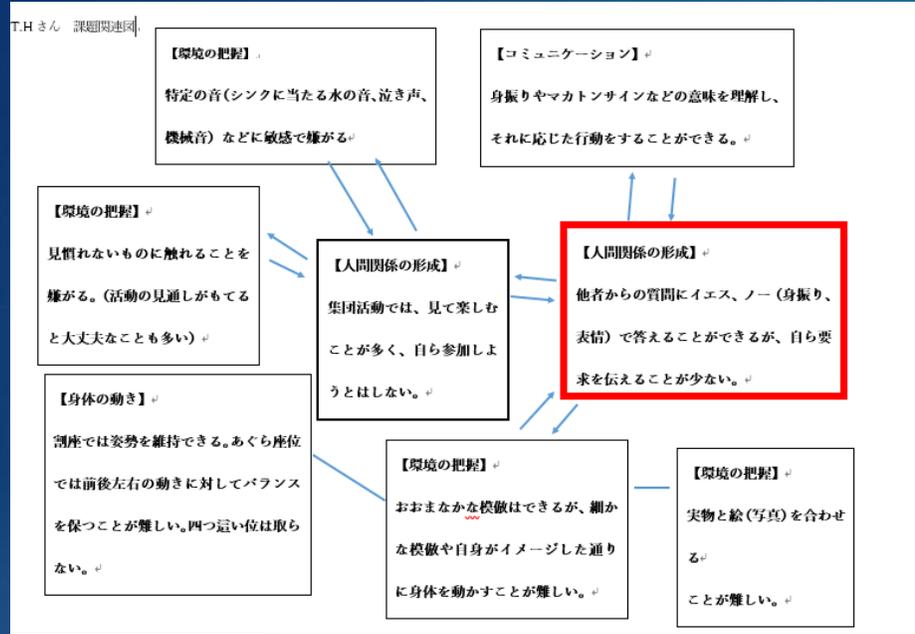
学習評価

複数で評価

次年度の目標設定

変容を  
「自立活動実態表」  
に記載

# 参考資料1 「課題関連図」



# 参考資料 2-1 「活動分析表」

## 【小1グループ】

※小1 サインの記録

サイン	11月6日(水)	7日(木)	8日(金)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
イス			○△					
座る			☆				□☆	
おいしい	□		☆			☆		
ちょうだい			☆	☆				
食べる			○		パンザイ			
車いす	□		○		☆	☆	□☆	
飲む		□○	○		☆	□	□○	
本	○手を合わせる					□		
コップ	□		○					
スプーン			△	○△	☆			
フォーク			△					
家	○グーで上げる		○	○△				
車			○△					
バス			○△	○△				
行く	☆							☆
ここ、そこ			☆				☆	
あっち								
トイレ	○	○	☆	☆	○	☆	○	
おはよう	○両手グー	○少し人差し指を意識している					○	
はじめ	○		☆					
おわり	○	○	☆	○	○	○		
その他	お願ひ☆、「お願ひって言うんだよ」、返事→左手のみ上げる	ひき△→○	寝る○、洗う○、牛乳△、アイス○、バス○、→教師の手の動きに合わせて手をにぎる。園工○グーを合わせる。	花○△、トイレ☆、プレーキ後終わりサイン○、始まり○☆、終わりサイン○	おりたい、→手差し、プレーキ後終わりサイン○		トイレ○、→発声、表情で語え、「何？」と問いかけると手差し後にトイレサイン？、おはよう○、一指を動かして真似ようとする。	

◎：自発（言葉を聞いて表出する場合も含む） ○：模倣 △：一緒に ☆：言語理解 □：見るのみ

サイン	18日(月)	19日(火)	21日(木)	22日(金)	25日(月)	26日(火)	27日(水)	28日(木)
イス				□☆	△ / □	□☆		☆
座る	☆	□	☆					☆
おいしい	○	○		○	○		○☆	○
ちょうだい					☆			☆
食べる	○				○△		○☆	○
車いす	□☆	□	□	□	○	□☆	☆(手差し)	☆
飲む	○	☆		○				□
本	○				☆ / ○		○手を開くようになってきた	○
コップ	○							
スプーン			○		○			
フォーク	□				△		○☆	
家					○			○
車					○△			
バス					○	○		○
行く		☆			☆		☆	☆
ここ、そこ					☆			
あっち								
トイレ	○	○	○自ら	○		○	○自ら	○
おはよう	○指を意識しながらグー							
はじめ								
おわり								
その他	本、→今までは手を合わせて終わっていたが、手を合わせた後に手の甲を下にしてグーで表していた。	「トイレ行く？」→パンザイ、「トイレは？」→○、生単古田 T の動き→○	トイレ(からだの時間)→○、ピン(生単古田 T の真似)○、牛乳○、固形○	トイレ○	トイレ○	トイレ○、トイレ(からだ後)→○、「いただきます」、→食べる☆、バス、→△、※少し上下に動かす様子があった		ひき(歌)○、バイバイ○

◎：自発（言葉を聞いて表出する場合も含む） ○：模倣 △：一緒に ☆：言語理解 □：見るのみ

サイン	29日(金)	12月2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)
イス						
座る	□△			☆	☆	
おいしい		◎お茶を飲んだ後		◎		
ちょうだい	☆□			☆		
食べる	◎			◎写真を見て手を口に運ぶ		
車いす	□△			☆	□△	
飲む	☆○	○		◎	☆	
本				◎		
コップ						
スプーン				◎○		
フォーク				○		
家						
車					○	
バス						
行く	☆					
ここ、そこ						
あっち						
トイレ	◎			◎		△ ◎
おはよう	○					
はじめ	◎					◎
おわり	◎	◎ / ◎ (プレーキ後)				◎
その他	バイバイ◎	ほっぺ(歌)○				園工○△

※T.Hさん 国算記録

	11月18日	25日	27日	12月2日	4日
選択する (マッチング)	×	△ (2枚正答)	△ (2枚正答)	△ (3枚正答)	△ (3枚正答)
模倣する					
①家	△	△	○	○	△
②バス	×	×	△	△	△
③スプーン	○	○	○	○	○
④コップ	○	○	○	○	○
⑤花	△	△	○	○	○
自発する					
①家	×	×	△	×	△
②バス	×	×	×	×	×
③スプーン	△	△	○	○	○
④コップ	△	△	○	△	△
⑤花	△	△	△	△	○
その他	マッチングでは左右に並んだカードを両手で取ってしまった。	マッチングではカードを上下に置くと正しい方を模倣することができた。	マッチングではカードを上下に置き、正答を奥に置いて模倣することができた。【スプーン・コップ】は口の近くに手を運ぶ際に、口も開けるようになった。【家】は指先を合わせようとするが、指が絡んでしまう。	【コップ】は「ごくごく」と擬音語を加えることで自発することができた。【バス】は両手をグーにして開けるようになった。【家】は指先を合わせようとするようになった。	

○できた △一緒に ×難しかった

# 参考資料 2-2 「活動分析表」

## 【小4グループ】

小4 活動分析表

年間目標・・・教師の働きかけを受けて、その意図に応じて動くことができる。

指導目標・・・1. パペットやペープサートなどに注目し、遊具人物の動きに合わせて追視する。  
2. 自分の名前を呼んだ教師の方向へ顔を向ける。  
3. 教師と触れ合い遊びを通してやりとりに意図した動きをする。  
4. 目の前に提示したものに自分から手を伸ばし触れる。

指導内容・・・  
(手立て)  
1. 様々な方向から提示し、追視する力を高める。提示する距離を少しずつ離していく。  
2. 注目できるように伝える。反応が少しでもあったときには賞賛し、出来たことが実感できるようにする。  
3. ギョコンパツタンなどのやり取り遊びを通して見直しを持って動きに応じることができるようにする。  
4. 様々な素材を目の前に提示し、好きなものや嫌いなものを探る。簡単な遊びや制作活動をする。

活動内容	10/14	10/15	10/23	10/29	10/30
声かけや音を手がかりに、目の前に提示された事柄に注目する。	○	○	○	○	○
声かけや音を手がかりに、目の前に提示された事柄の動きを目で追う。	○	○	○	○	○
声かけを手がかりに目の前に提示された事柄に注目する。	△	○	○	○	○
目の前に提示された事柄の動きを左右 30cmほど目で追う。	△ (教師の声)	△ (教師の歌)	○ (BGM)	○	○
目の前に提示された事柄の動きを 1mほど目で追う。	△	△	△	○(光)	○(光)

○できた、△条件付き達成、×できなかった。

上記以外の方法(手立て)で達成できた。など。詳細は記述欄へ記載。一指導の改善につなげる。

## 【中1グループ】

自立活動 活動分析表

年間目標・・・様々な場面でタブレット機器や写真カード、絵カードを用いて、選択しながら学習に取り組むことができる。

指導目標・・・提示された物をよく見て、同じ物を選べることができる(二者択一)。

指導内容・・・生徒に具体物を注視させる。注視しやすいように視覚刺激や触覚刺激の少ない環境を整えて学習に取り組む。  
(手立て)・・・注視した後、2種類の具体物を提示して机の上に乗せ、同じ物を選ばせる。

活動内容	8/26(月)	8/29(木)	9/2(月)
①提示された物と同じ色の物を選ぶことができる。	×	未実施	未実施
②赤、青の2色を見比べ、同じ色の物を入れたりすることができる。	△	△	△
③複数の色の入れ物にボールを入れることができる。	×	△	未実施
④赤、青、黄、緑に色分けされた異なる形の型はめをすることができる。	○	○	未実施
⑤提示された物と同じ形の物を選ぶことができる。	△	△	△
⑥文字を見て、同じ文字カードを選ぶことができる。	未実施	未実施	未実施

○できた、△条件付き達成、×できなかった

記述欄

8/26(月)	8/29(木)	9/2(月)
①「〇色はどっち?」などと言葉かけしながら、2色の折り紙やプロッタを選ばず学習を行ったが、不正解のことが多かった。	②入れる物を一つずつ渡すことで、正解する確率が上がったが、教材で選んでしまうことがあったので、工夫が必要。	②2色マッチングでは、様々なパターンで教材に興味を持って取り組んでいた。
②集中している時は正解することがあったが、教材で選んでしまう傾向があった。	③2色の色から一つずつ色を選ばせていきながら活動を行うと同じ色の箱にボールを入れることができることもあった。	☆カラーコーンは手元を見て、意図的に取り組んでいた。正解率が上がった。
③一度に複数の色を見比べて判断をすることは難しかった。	④4色の型はめは、集中して一人で取り組むことができた。	☆貸や輪を選ばず・初めての教材だったので、教師と一緒に取り組んだ。
④カードと同じ形状の具体物を選ばず活動では、正解することもあったが、選別して選別しているとは言い難い。	⑤前回と同様。	☆プリントイン色の区別はついてきているようであるが、同じ穴のところにを入れることが難しかった。
	⑥前回と同様。	⑤前回と同様。集中している時は、正解することが多かった。

## 【訪問グループ】

＜活動分析表＞

全身の揺れ

○ 覚醒高 △ 身体接触で支援 × 覚醒低

内容	日時	8月22日(木)	11月14日(木)
① エアマットへの移乗	○ 目を開ける、口の動き	○ 笑う	○ 笑う
② 音楽をかける	○ 表情変化、笑顔	○ 笑う、目の動き	○ 笑う、目の動き
③ 全身を揺らす	○ 口の動き	○ 笑う、口の動き	○ 笑う、口の動き
④ 揺れを止める	○ 口の動き止める	○ 口の動き止める	○ 口の動き止める

移動前は覚醒低い  
移動前から覚醒している

エアマッドに移乗する際に目を開ける。

そのまま覚醒を維持したり、さらに気持ちを高揚させる。

＜活動分析表＞

端座位(教師の支え) ○ 覚醒高 △ 身体接触で支援 × 覚醒低

内容	日時	9月10日(火)	10月31日(木)
① 座位への姿勢変換	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。
② 座位保持(20分間)	○ 音楽をかける笑顔口を開けている。	○ 何度か体に力が入る	

端座位(座ろう君) ○ 覚醒高 △ 身体接触で支援 × 覚醒低

内容	日時	7月9日(火)	8月22日(木)
① 座位への姿勢変換	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。
② 座位保持(20分間)	△ 暖気有り。肩を揺さぶると起きる。	×	座ろう君の揺りまでには耐えている。話し声を抑えて笑顔。座ろう君の揺り後に涙。

覚醒低くなる

# 参考資料 2-3 「活動分析表」

## 【高1グループ】

**自立活動 活動分析表**

年間目標・・・高等部での生活に徐々に慣れ、自分の要求や気持ち、依頼を言葉で伝えながら、安定した気持ちで学習に取り組むことができる。

指導目標・・・相手の顔を見てあいさつできる。

指導内容・・・自分からあいさつできるよう、目が合った後に待つ、動作で促すなど手順を意識する。

活動内容	8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
相手の顔を見る。	○	○	○	○	○
〈促し〉動作であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈促し〉言葉であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈自分から〉動作であいさつをする。	○	○	×	×	×
〈自分から〉言葉であいさつをする。	○	○	×	×	×

○できた、△条件付き達成、×できなかった

上記以外の方法（手立て）で達成できた。など。  
詳細は記述欄へ記載。→指導の改善につなげる。

記述欄

	8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
目が合うと自分から「おはよ」と小さい声で言えた。	こちらから話しかける前から目が合っていた。目の前で名前を呼ぶと自分から「おはよう」と挨拶してきた。	前週と同じように目を合わせて名前を呼び、待つが自分からは挨拶はなくこちらの「おは」の途中で「よう」と言う。	目を合わせて少し待つ。目を見て名前を呼んで少し待つ。挨拶がないのでこちらから「おはよう」と言うと、目を見てすぐ「おはよう」と言ってきた。	目が合った後、「おはよう」と言うと、「おはようございます」とは違う言葉を発する。周りの教師に促され、3、4回目に「おはようございます」と言えた。	

**自立活動 活動分析表**

年間目標・・・高等部での生活に徐々に慣れ、自分の要求や気持ち、依頼を言葉で伝えながら、安定した気持ちで学習に取り組むことができる。

指導目標・・・相手の顔を見てあいさつできる。

指導内容・・・自分からあいさつできるよう、目が合った後に待つ、動作で促すなど手順を意識する。

活動内容	8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
相手の顔を見る。	○	○	○	○	○
〈促し〉動作であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈促し〉言葉であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈自分から〉動作であいさつをする。	○	○	×	×	×
〈自分から〉言葉であいさつをする。	○	○	×	×	×

○できた、△条件付き達成、×できなかった

上記以外の方法（手立て）で達成できた。など。  
詳細は記述欄へ記載。→指導の改善につなげる。

記述欄

	8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
目が合うと自分から「おはよ」と小さい声で言えた。	こちらから話しかける前から目が合っていた。目の前で名前を呼ぶと自分から「おはよう」と挨拶してきた。	前週と同じように目を合わせて名前を呼び、待つが自分からは挨拶はなくこちらの「おは」の途中で「よう」と言う。	目を合わせて少し待つ。目を見て名前を呼んで少し待つ。挨拶がないのでこちらから「おはよう」と言うと、目を見てすぐ「おはよう」と言ってきた。	目が合った後、「おはよう」と言うと、「おはようございます」とは違う言葉を発する。周りの教師に促され、3、4回目に「おはようございます」と言えた。	

**自立活動 活動分析表**

年間目標・・・日常での生活の中で協力動作を行おうとする場面を増やすことができる。

指導目標・・・車いすから工房いすへ、またその反対の立位移動動作を少ない介助でできる。

指導内容・・・座った姿勢から、介助者の首に腕を回し、膝を伸ばす動きや、立位姿勢に移る動きを意識しながら繰り返し取り組む。

活動内容	8/21	8/22	8/23	8/26	8/27
フットレストから足を上げる、浮かす。	○	○	○	○	○
前傾姿勢で、おしりを前へ動かす。	○	○	○	○	○
介助者へ手を伸ばす。	○	○	○	○	○
お尻をあげる。	○	×	○	×	○
立ち上がる（足でふみしめる）。	×	×	○	×	△

○できた、△条件付き達成、×できなかった

上記以外の方法（手立て）で達成できた。など。  
詳細は記述欄へ記載。→指導の改善につなげる。

記述欄

	8/21	8/22	8/23	8/26	8/27
膝が伸びなかった。		昨日はできていたが、自分から立とうとしなかった。	足を踏みしめて立つことができた。1日スムーズに立位をとることができた。	眠気からか、自分から立とうとしなかった。	立ち上がりでは、骨盤が立つように支援することで踏みしめられた。

### 3.<次年度の方向性>

【次年度（令和3年度）の実践研究（案）】 1年延長

## 研究主題

「根拠のある学習評価を目指して」...

令和1～2年度  
と同様

～学習評価及び授業評価を次の計画につなげる～ **（新規）**

## 1年延長 の理由

## 意見②

評価規準の立て方などについて  
研修の場が必要

記入の仕方について、  
十分に理解できていない

具体例があると良い

不安がある  
うまく記述できるか？  
負担が増えるのでは？

外部講師による研修会

※内容についてアンケート実施済み

先生方の要望を聞きながら複数回の実施

- ・ 授業実践を通して、手順の定着を図る。
- ・ 中間報告を実施し、他のグループについても知る。
- ・ 教務部に質問、確認しながら行う。

グループ研究の時間を作成に当ててるの  
もあり。

★次年度、同じ主題で実践研究を実施し、課題解決を目指していく

## サブテーマを変更します!!

～日々の授業と教育課程の改善をつなげるための仕組みをつくる～（令和1～2年度）

⇒手順、仕組み（以下に示すように）は確認できた。

しかし・・・一部のグループが活用しただけ・・・  
みんなが使えるものになっていない・・・

**みんなが活用!!**

**授業実践  
して検証**

**手順の定着を!!**

### 1、教科の学習：単元指導計画

- ①単元のねらい・評価規準の設定 ★研修が必要
- ②授業の構成
- ③学習評価（個別の評価・個別の有効な手立て）
- ④授業評価（5つの視点）

**次の計画に  
つなげる**

### 2、自立活動の指導：

自立活動実態表→活動分析表（工夫が必要）→自立活動実態表

## 「授業改善」 ※各グループ発表イメージ

★どんなねらいをもって行ったか？ 学習指導要領・複数の目で

根拠

★どんな授業を行ったか？

★学習評価：児童生徒ができるようになったことは何か？

教科の場合・・・観点別評価（資質能力3観点）

個別の有効な手立ては何か？

・・・次の学習へ反映or他の学習へ反映

★授業評価：授業でどんな工夫をしたか？どんな配慮をしたか？

・・・次の学習へ反映。次年度の学習へ反映

重要

# < 令和3年度 研究グループの編成 >

## < 教科グループ >

知的代替の教育課程の  
児童生徒の「教科の学習」

- 音楽
- 図画工作・美術
- 体育
- 生活・理科・社会
- 国語
- 算数・数学

※小 - 中 - 高の串ざしグループ

L字構造  
(個別性、系統性)

授業づくりの5つの視点  
ICTを活用した学習機会

## < 自立活動グループ >

自立活動中心の教育課程の  
児童生徒の「自立活動の学習」

自立活動実態表や課題関連図を活用し、  
児童生徒の目標設定や学習評価を「複  
数の目で」行い、授業実践、授業改善  
を行う。

※小 - 中 - 高の串ざしグループ

課題関連図

## < 別グループ >

本校の課題に応じたグループ

- 訪問 ●寄宿舎
- 小中指導すべき内容整理 ●高等部指導すべき内容整理

ICTを活用することで、  
児童生徒の学習の機会  
をどのように広げること  
ができるか。  
先生方が考える1年に!!

**実践研究を通して  
目指すこと!!**

年度末反省、  
アンケート集約  
等から

**★先生方の実践を集約（集録）**

**★授業の工夫やアイデアを出し合う研修  
をメインにする（主体的な研修）**

**★研究で作ったものを活用**

今年度の成果（授業作りで「工夫すべきこと・配慮すべきこと」）

**★先生方が不安なところを補う研修**  
⇒単元のねらい、評価規準の立て方等の研修

**★手順の定着を図る**

実践研究を通して  
目指すこと!!

【教科】

観点別の評価（資質・能力） → 自信を持って評価できる。

【自立活動】

記録の累積、複数で評価 → 自信を持って評価できる。

（根拠、妥当性）

P D C A

※学習評価、授業評価を行うことで → サイクルを機能させる。

（カリキュラムマネジメントの充実）

# 【令和3年度 真駒内養護学校の実践研究】

## 研究主題

「根拠のある学習評価を目指して」

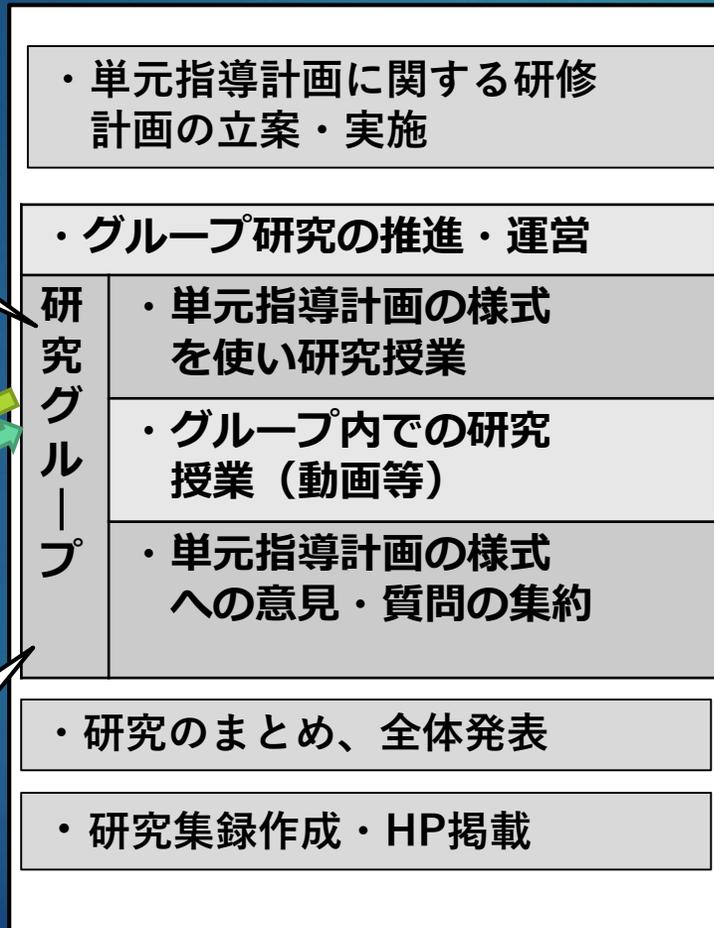
～学習評価及び授業評価を次の計画につなげる～

2年目 / 2カ年計画

1年延長  
(3年目)

# < 関係部署との役割分担 >

## 研究部



< 研修会や北肢研などでの支援 >  
情報教育部

自立活動教諭

助言

質問・相談

< 本校の課題に応じた別グループ >  
訪問学級  
寄宿舎

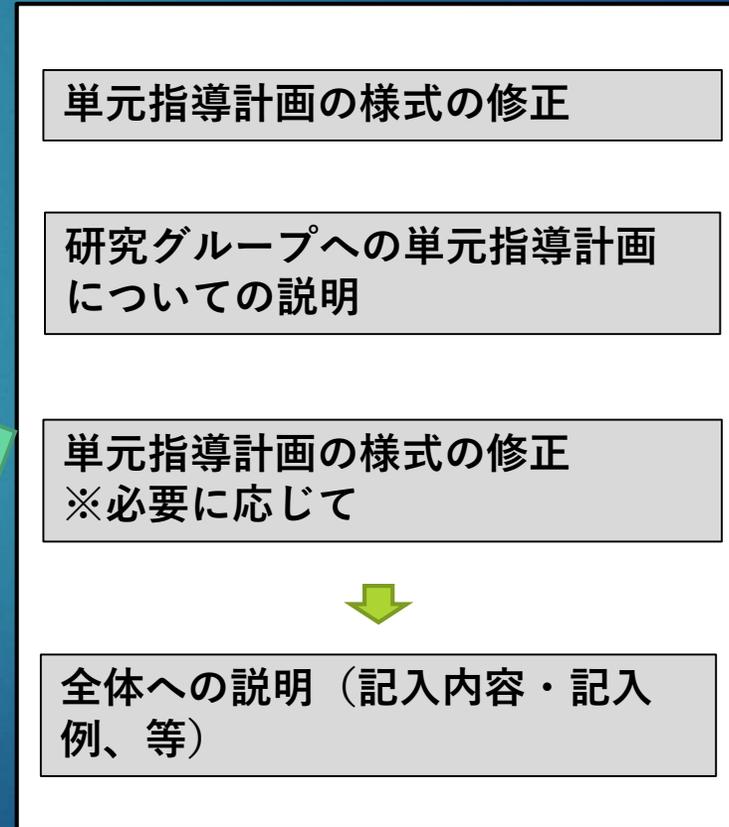
外部講師

依頼

管理職

依頼

## 教務部



助言

質問・意見



# < 研究日程目安 >

北肢研研究授業にむけて研究グループの選定、依頼

次年度の研究テーマにかかわるアンケート実施

4月	5月～6月	7月	夏季休業	8月～11月	12月～1月	3月
<p><b>全校研究会 (外部講師を予定)</b></p>	<p>研究グループの提案</p> <p>各グループで単元計画の作成</p>	<p>各グループで単元計画の作成</p> <p>研究授業① (動画視聴)</p>	<p><b>全校研究会 (外部講師を予定)</b></p>	<p>各グループ 中間報告 →研究部通信で行う。</p> <p>各グループで単元計画の作成</p> <p>研究授業② (動画視聴)</p>	<p><b>研究報告会</b> ⇒グループ研修報告 (2日日程)</p> <p>オンラインの場合 <b>北肢研本番</b></p> <p><b>全校研究のまとめ①</b></p>	<p><b>全校研究のまとめ②</b> (今年度の研究のまとめ、次年度への方向性)</p>

- ・ 評価規準の記入の仕方
- ・ 学習評価（特別支援・知的）についての概要
- ・ 単元計画の作り方  
(内容のまとまりごとの評価規準から単元の評価規準（各教科）を作成するポイント)  
(評価の計画の考え方、評価の仕方)  
(個別の評価規準と単元の評価規準の関係) など

北肢研の会場校に当たるため、研究授業を実施  
※オンラインでの場合は動画で発表。

自活教諭  
グループ

# 【データ保管場所】

令和2年度末

自立活動実態表

活動分析表

研究集録

課題関連図

令和2年度研究  
集録データ追加

学習内容構成表

各教科の内容の  
発展・関連図

指導すべき内容

授業づくりで  
「工夫すべきこと・配慮すべきこと」  
授業全般

授業づくりで  
「工夫すべきこと・配慮すべきこと」  
各教科

## ●データ保管場所

文書データ→研究部（授業作り、活用できるデータ等）